

「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」
に関する手引書

平成27年3月



(委託先) 一般財団法人ニューメディア開発協会

はじめに

高齢者がICTを安心・安全に、また日常生活において特別なものとして意識することなく、楽しく便利なものとして利活用し、その恩恵を享受できるようにするためには、ICTリテラシーの向上が必須です。また、高齢化が深刻な社会問題となっている我が国においては、ICTリテラシーを身に付けた高齢者による地域の教え学び合う活動、豊富な知恵と経験に基づき、ICTを活用した地域社会活動への参加、又は就労や起業による社会参画が求められています。

そこで、総務省では、高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会を地域実証として実施し、地域での効果的かつ持続可能な講習会の実施方法等を検証し、本手引書を作成しました。

本手引書は、講習会実施計画書の作成、受講者の募集、会場の準備、講師の配置等、各段階の進め方や留意点を詳述するとともに、実際に発生した事例も取り上げた実践的な手引書です。そのため、本手引書を参照しながら講習会を企画・実践することで、容易に高齢者のICTリテラシー向上に取り組むことができます。

また、講習会に利用できるコンテンツとして、この手引書の他にカリキュラム、講師用・受講者用のテキスト、広報資料等を作成しました。これらのコンテンツは総務省ホームページからダウンロードして、使用することができますので、高齢者のICTリテラシー向上の取組にお役立ていただければ幸いです。（地域特性等に適合させるための複製や改変等は、自由にできます。）

(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/media_literacy.html)

目 次

1. 「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する手引書について

(1) 本手引書の背景と構成 …………… 1

総務省は、平成26年度に、「ICT利活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」事業として、高齢者のICTリテラシーの向上を図る講習会の実証事業を実施しました。

そして、この実証事業を通じて得た成果を広く他の地域へと展開するため、本手引書を取りまとめました。本手引書は、「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に参加後の社会参画の事例（成果事例）と講習会の進め方や留意点で構成されています。

(2) 「ICT利活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」事業の概要 …………… 2

平成26年9月から平成27年2月にかけて実施した「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する実施地域、実施スケジュール、実施目標、実施カリキュラム、実施体制、実施内容（会場、広報、機器、行師、ICTサポーター、アンケート等）等の概要を記載しています。

2. 「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する成果事例

(1) 高齢者が社会参画を実現し、自らを活かし、役割を担った事例 …… 7

- [事例1-1] 高齢者がパソコン教室の講師を担当 …………… 7
- [事例1-2] 地域の問題を、カメラ機能を利用して解決 …………… 8
- [事例1-3] 離島から、新鮮な魚介類の情報を発信 …………… 9
- [事例1-4] タブレットで地域のボランティア活動の状況を発信 …………… 10
- [事例1-5] 外国人に日本語の筆順を教えています …………… 11

(2) 受講者又はシニアボランティアの講師等から好評であった講習会の取扱い …………… 12

- [事例2-1] 受講者の興味を引付ける標準カリキュラムの内容 …………… 12
- [事例2-2] グループ実習・討論・発表は、コミュニケーション形成に有効 …… 13
- [事例2-3] 実施地域に密着した講師で、受講者はリラックスして受講 …… 14
- [事例2-4] 事前の講師講習会で、講師のスキルアップと講義レベルの統一 …… 15
- [事例2-5] 受講者4名に1名以上の講師を配置し、密度の濃い指導 …………… 16
- [事例2-6] 受講者の募集広報の工夫で、多数の応募者 …………… 17
- [事例2-7] 受講者通知の工夫で、間違いや安易な欠席の防止 …………… 18
- [事例2-8] 自治体の防災担当の協力を得て、地域の実際の防災対策を体験 …… 19
- [事例2-9] グループディスカッションにKJ法を取入れて好評 …………… 20

3. 「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」の進め方と留意点

3.1 講習会の実施計画等 21

(1) 講習会実施計画書の作成 21

- ・実施目的を明確に決める
- ・講習会の実施目標を明確に決める
- ・講習会を実施する資源の前提条件を数字で明確に決める
- ・講習会の実施にかかる費用は、詳細に見積る
- ・講習会の目的に見合った受講料を決める
- ・講習会の開催時期、曜日等は、受講者が集まる時期・日時等を考慮して決める
- ・講習会関係者の事前の意識合わせを行い、実施するための基本的な運用ルールを決める

(2) カリキュラムの作成 25

- ・講習会に出席したくなるようなカリキュラムにする
- ・座学は短く、受講者のICT機器に触れたい気持ちを大切にする
- ・講習は、高齢者の特性に合った質と量、復習についても考慮する
- ・講習は、ICTのリテラシー向上に関する内容以外についても考慮する

(3) 実施体制及び協力体制 28

- ・地域に密着したICT関係の活動を行っているシニア団体等と連携する

3.2 講習会の事前準備 30

(1) 会場の選定及び確保 30

- ・会場の事前調査は、設備状況、特にインターネット接続環境が重要

(2) 使用機器の選定及び配備 32

- ・使用機器の選定と配備は、受講者目線で行う

(3) 受講者用研修教材及び講師用研修教材の作成 33

- ・受講者用研修教材は、受講者目線で作成する
- ・受講者用研修教材は、受講者それぞれに配布する

(4) 講師配置及び研修及びICTサポーターの配置等 35

- ・講師は、受講者3～4人に1人が望ましい
- ・講師は有償のボランティアで、講習に責任をもたせる

(5) 講習会の受講者の募集及び選定 37

- ・ 募集要項は、漏れなく、正確に明示することが重要
- ・ 公的な広報手段を利用すると費用対効果が絶大
- ・ 応募の受け付け方法を工夫する
- ・ 受講者選定基準の明確化と受講決定通知を工夫する

3.3 講習会の実施 41

- ・ 講習会のリハーサルは、本番環境で、本番状態で行うのがベスト
- ・ 受講者が安心して、楽しく受講できる環境作りに配慮する
- ・ 一日の講義時間は、3時間程度が適当であり、1時間間隔で休憩が必要
- ・ 講義内容は、一般的事例だけでなく、地域の事例を加えると効果的
- ・ 講習会で使用する端末機器の維持をタイミング良く行う
- ・ 講習会の改善点等のフィードバック、関係者間の情報共有体制を整備する

3.4 講習会の実施結果の検証 45

- ・ アンケート項目は、アンケートの目的（講習会の目的等）から決める
- ・ アンケートの取得方法は、受講者の記入する立場から決める
- ・ アンケートの様式は、空白回答とならないように工夫する

付録 成果発表会で報告した講習会の成果事例 48

1. 「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する手引書について

(1) 本手引書の背景と構成

我が国は、世界でも類を見ない超高齢社会に突入しています。「平成26年版高齢社会白書」(内閣府)によると、65歳以上の高齢者は、総人口(平成25年度時点で1億2,750万人)の25.1%(前年度24.1%)にも達し、今後も増加傾向にあるのに対し、生産年齢人口(15歳～64歳)は、総人口の62.1%(前年度62.9%)と、平成7年をピークに年々減少を続けています。また、高齢者のいる世帯は、全世帯(平成24年時点で4,817万世帯)の43.4%を占め、このうちの53.6%が高齢者の単独世帯又は夫婦のみの世帯です。今後、高齢者の社会的孤立や孤独等の問題が深刻化すると予想される我が国では、高齢者の社会活動を推進することが重要です。

一方、「ICT超高齢社会構想会議報告書;平成25年5月」(総務省)によると、50歳を境に、短期記憶能力は急激に衰えるが、日常問題解決能力や言語能力は、経験や知識の習得によってむしろ向上すると報告されています。また、意識の面でも、社会参画への意欲が非常に高まっている旨、報告されています。近年、コミュニケーション活性化のためのツールとして情報通信技術(以下「ICT¹」という。)の有効性が見直され、また、日常生活においてもICTの利活用を前提としたサービスが一般的になっています。しかし、このような中、高齢者のICT利用率は他の世代に比べて低く、また、ICTリテラシー²が不十分な傾向にあり、ICT社会から取り残されるおそれがあります。これを回避するためには、高齢者が積極的にICTを活用した情報の発信及び交流を通じて、高齢者の新たなコミュニティ形成や就労、起業、ボランティア活動、地域課題の解決に向けた取組等社会参画を実施することが有効で、そのためには高齢者のICTリテラシーを向上させることが必須です。

これらのことを踏まえ、総務省は、平成26年度に、「ICT利活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」事業(以下「本実証事業」という。)として、高齢者のICTリテラシーの向上を図り、ICTを活用した地域社会活動への参画等に繋げるスキル習得に向けた講習会のためのテキストや実施手引書等を開発しました。

本手引書は、この実証事業を通じて得た有効な実施手順・方法等の成果を広く他の地域へと展開するために取りまとめたものです。

なお、本手引書の構成は、次のとおりです。

第1章では、本実証事業の実施に至る背景及び本実証事業の概要について記述して

¹ ICTとは、Information and Communication Technologyの略称であり、コンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称をいう。

² ICTリテラシーとは、単なるICTの活用・操作能力のみならず、メディアの特性を理解する能力、メディアにおける送り手の意図を読み解く能力、メディアを通じたコミュニケーション能力までを含む概念をいう。

a) 講習会の実施目標

本講習会の実施目標は、OECD国際成人力調査³の「ITを活用した問題解決能力」等の客観的指標を踏まえ、ICTリテラシー向上に係る目標値を「ITを活用した問題解決能力」の「習熟度レベル1：電子メールソフトやウェブブラウザなどの汎用的なアプリケーションを利用して、自分で必要な情報へのアクセスや情報交換を行い、問題解決する操作ができるレベル」としました。

b) 各地域における講習会の実施概要

本講習会は、表1に示す自治体及び運営協力団体の協力を得て、自治体が管轄する地域の会場（計36会場）において、計992人の高齢者に対して実施しました。各地域における講習会の実施概要を表1に示します。

表1 各地域における講習会の実施概要

地域（自治体）	運営協力団体	使用OS	開催時期
北海道 帯広市	特定非営利活動法人 とかちシニアネット	Android	後半
岩手県 一戸町	特定非営利活動法人 いわてシニアネット	Android	前半
栃木県 栃木市	特定非営利活動法人 栃木県シニアセンター	Android	前半
新潟県 新潟市	特定非営利活動法人 新潟県高度情報社会生活支援センター	Android	後半
福井県 坂井市	特定非営利活動法人 いきいきITクラブ	Android	後半
岐阜県 大垣市	グレートインフォメーション ネットワーク株式会社	iOS	前半
和歌山県 田辺市	特定非営利活動法人 つれもてネット南紀熊野	iOS	後半
山口県 光市	特定非営利活動法人 シニアネット光	iOS	前半
愛媛県 松山市	特定非営利活動法人 トータルサポート21	iOS	後半
鹿児島県 薩摩川内市	特定非営利活動法人 鹿児島ASC	iOS	前半
沖縄県 南城市	シニアネットNAHA	iOS	後半

³ 国際成人力調査（Programme for the International Assessment of Adult Competencies；PIACC）の調査結果は、OECD（経済協力開発機構）（<http://www.oecd.org/site/piaac/>）及び文部科学省（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/0thers/1287165.htm）のホームページで公開されている。

なお、各地域における講習会は、次に示す基本方針の下で実施しました。

- ・各自治体の行政区域内に存在する3か所の会場を選定し、1か所当たり約1か月間（2コース）の講習を行った後、次の会場に移動し、合計約3か月間の講習を実施する。
- ・各会場では、1コマ3時間程度の講習を全4コマ、これを1コースとして、同じ内容の講習を2コース実施する。
- ・各コースともに、受講者数は15名を基本とする。

つまり、各地域3会場（計33会場）で、同じ内容の講習を3か月間で6コースを実施し、各地域の目標受講者数は90名（計990名）としました。

しかし、一部の地域から、例えば、離島を含め、行政区域内において満遍なく講習会を開催したい旨の要望もあり、特別に4会場（但し、コース数は6コース。）で実施した地域があり、最終的に36会場で講習会を実施しました。

c) 講習会で使用した標準カリキュラム

本講習会は、講習会を開催する地域において、講習内容のバラツキが生じないように、ICTリテラシー向上や社会参画促進に資する「標準カリキュラム」を作成して実施しました。作成した標準カリキュラムの概要を表2の示します。

表2 標準カリキュラムの概要

回数	項目	内容
第1日目 (1コマ目)	開会及び オリエンテーション	◇開会式（開会挨拶、講師紹介等） ◇オリエンテーション ・講習会の目的に関する説明及び諸注意
	～学んで体験～ 第1講義 ICT活用事例紹介	◇講義のねらい タブレットは高齢者にとって有用なICT機器であり、情報の取得やコミュニティへの参加を容易にする。このため、高齢者であっても社会参画の機会が十分にあることを理解させる。 ◇講義内容 ・ICTを活用すると便利な事例の紹介 ・ICTを活用による身近な社会参画の事例紹介 ・パソコン、タブレットの使用体験の発表 (受講者の自己紹介を兼ねて)
	第2講義 基本操作	◇講義のねらい 電源のオン・オフ、画面へのタッチ方法等、基本的な入力の仕方を習得させる。 ◇講義内容 ・タブレットの基礎操作（電源オン・オフ等） ・いろいろな設定の方法（音量調整等） ・ウィンドウタッチの操作 ・キーボードの操作 ・音声入力の操作

回数	項目	内容
第2日目 (2コマ目)	～便利に使う～ 第3講義 インターネットの利用	◇講義のねらい インターネットにアクセスすれば、多くの情報が容易に得られ、メールやテレビ電話等が安否確認や高齢者自身の孤立防止に有用であり、また、オンラインショッピング等の利用により生活の利便性が向上することを理解させる。 ◇講義内容 ・インターネットでできることの紹介 ・インターネット接続の準備 ・電子メールの利用方法 ・テレビ電話の利用方法 ・ウェブの利用 ・インターネット利用に当たっての留意事項
第3日目 (3コマ目)	～趣味で活用～ 第4講義 楽しい使い方	◇講義のねらい Facebook等SNSへの発信、趣味によるサークル活動等を通じて、社会参画の機会が増大することを理解させる。 ◇講義内容 ・FacebookやSNSの利用方法 ・動画と写真の利用方法 ・撮影場所のマッピング方法 ・電子書籍の利用方法 ・その他趣味に使えるソフトウェアの紹介 (音楽、ラジオ、お絵かき等のソフトウェア)
第4日目 (4コマ目)	～成果と応用～ 第5講義 ルート検索の方法	◇講義のねらい 自宅等から避難場所までの避難ルートのマップを作成させることで、社会貢献への可能性を理解させる。 ◇講義内容 ・ルート検索の利用方法 ・グループによる実習 ①受講者をグループに分け、自宅等から指定避難場所までの避難ルートのマップを作成し、危険箇所をチェックする。 ②タブレットの便利な利用方法及び趣味、就労・起業、社会参画等へのICT利活用に関する討議 ・成果発表 (グループ毎に発表)
	オリエンテーション 及び閉会	◇オリエンテーション ・成果発表者の決定(本実証事業に限る。) ・アンケートの配布、記入及び回収 ◇閉会式

「標準カリキュラム」には、実際のインターネットサービスの利用による体験学習、SNSなどによるコミュニティへの参加と新規コミュニティの立ち上げ方法の解説、グループ学習による身近な課題発見、成果発表を収録しました。また、単にICTのスキル習得に留まらず、趣味等を通じた交流や就労、起業、地域の課題解決への取組など、高齢者は、十分に活躍できる戦力であることを気付かせ、行動の動機付けを行うとともに、講習を通じて自らが社会に貢献できる実感が得られる内容としました。

d) 本実証事業の実施ポイント

本実証事業の実施に当たってのポイントは、次のとおりです。

- ・実施体制は、講習会を支援する自治体とその地域に密着してICT講習会の開催等の活動を行うシニアネット団体等と連携して実施しました。
- ・講習会を支援する自治体と予め協議して、インターネット接続環境がある講習会場（公共施設）、開催日、講習会実施に関する募集等広報活動方法を決定し、自治体に募集等広報活動を実施して頂きました。
- ・講習会で使用するタブレットは、特定のOSに依存した実証結果にならないように、現在、広く利用されているiOSとAndroid OSを選択しました。なお、各自治体で実施する講習会で使用するOSは、いずれかのOSに統一しました。
- ・講師は、受講者4名に対して1名以上の講師を配置しました。シニアネット団体から推薦のあった講師候補者に対して、「講師用研修教材」を使って、2日間の講習会を実施して107人の講師を育成し、“講師”を委嘱しました。
- ・ICTサポーター⁴は、各講習会に2名以上を配置しました。シニアネット団体から推薦のあった115人に対して、「ICTサポーター」を委嘱しました。
- ・講習会の成果を確認するため、記入式アンケートと対面式アンケート（ヒアリング）の2通りのアンケート用紙を作成しました。記入式アンケートは、講師、ICTサポーター及び受講者の三者に対して行いました。対面式アンケートは、受講者に対して行いました。アンケートでは、本実証事業終了後も、自治体又は地域での自発的な取組みとして実施ができるよう、講習会の在り方を問う項目を設定しました。特に、受講者に対しては、高齢者の社会参画促進等の観点から、講習会の目的に関する理解度、講習会のカリキュラム（実施内容）及びその進め方（実施方法）、講習会を機会に実践した社会参画について調査しました。

⁴ ICTサポーターとは、講習会を円滑に実施するため、実施自治体と講師との連絡調整、講習会の周知等に関する自治体との連携、講習内容の確認・調整や会場設営等の諸準備を行う役割を担う者をいう。

2. 「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する成果事例

(1) 高齢者が社会参画を実現し、自らを活かし、役割を担った事例

[事例1-1] 高齢者がパソコン教室の講師を担当

私は、定年退職後、自分に何か出来ることはないかと探し、市の「高齢者のパソコン教室」を受講しました。それをきっかけに、「地域のITクラブ」に所属し、地域活動に参画しながら、パーソナルコンピュータ（以下「PC」という。）の勉強を続けていました。

タブレットの講習会の実施を「地域のITクラブ」が受託し、講師のための講習会を受講する機会を得ることができました。タブレットは、PCと違った感覚で、戸惑いもあり、初めは理解できませんでした。しかし、取り組んで行くうちに、自分でも、タブレットは本当に手軽で便利であると感じるようになりました。理事長から、メイン講師に指名され、不安もありましたが、折角のチャンスと心に決めて引き受けました。引き受けたからには、自分も楽しく、活用できないといけないとの思いで、練習に励みました。友達とメールや写真の写し方、テレビ電話でのおしゃべり、講習会会場へのルート検索、避難ルートの作成等、お互いに意見交換しながら習得しました。これも、楽しい思い出となりました。

タブレットの講習会の講師を担当するに当たっては、「自分自身が理解できなかったことは、受講者も同じである。指導の要点をゆっくり説明する優しさが大切である」と心掛けて講義しました。受講者には、「カメラを使う」と「旅行ルートの検索」に人気がありました。自宅で、こんなに簡単に交通機関の出発・到着時刻が分かるのか、早速、旅行したいと言う人もいました。避難ルートの作成は、地元のこととして、真剣に取り組む姿が印象深く残っています。タブレットは、聞いたことはあるが、若者がゲームをするものと思っていたが、自分も出来ると、大変、喜ばれ満足されてもいました。

タブレットの講習会の講師を担当し、自信とやりがいを感じました。これからも自分も楽しみながら、講師をしながら、沢山の出会いを大切に、社会貢献しながら実りある人生を歩んで行きたいと思っています。



〔事例 1－2〕 地域の問題を、カメラ機能を利用して解決

私は、携帯電話とPCを所有し、体調が悪い時の病名や応急処置の検索、国会の政治家の答弁等で分からない言葉の調査等に利用していました。タブレットが家にあっても、使用法が分からず、難しいと思い込み、使おうとはしませんでした。

今までは、タブレットのカメラ機能を使うことは考えていませんでしたが、今回の講習会で習い、こんなに便利で使いやすいものであることがわかり、タブレットの使用に自信ができました。そして、テレビを見ながら、タブレットで分からない言葉の意味を調べ、地名を聞いて、どこにあるのか等も調べています。タブレット使って、身体関節の仕組みを調べることができ、いつも準備運動をするようになりました。さらに、地域の活動にカメラ機能を大いに利用するようになり、自分達の住んでいる地域の問題を解決しやすくなりました。

台風の予想進路も詳しくわかる様になり、川の氾濫の状況も写真で撮り、危険な状態であることを市役所に説明でき、排水の工事が行われて、周辺の農家はとても喜んでいきます。



今まで、地域の草刈りは生活道路と拝所のみで、保育園の子供たちの散歩道は対象外でした。草が生茂る現場の写真を撮り、区の集まりで説明した結果、草刈りすることになりました。



また、私は漁業に従事していますが、航空写真で、海の地形がよくわかり、リーフで船を止めることができる場所がよく分かるようになり、そのため、危ない所に釣り船を止めている場合は指導しました。また、リーフの中で魚の通る水路がわかるようになり、追込み漁の袋網を入れる位置を簡単に決めることも出来るようになりました。自然の大切さや危険な個所、潮の流れ等を教え、事故防止の指導を行いました。

[事例1-3] 離島から、新鮮な魚介類の情報を発信

私は、パソコンを持っていますが、文書や年賀状、写真を編集する程度で、スマートフォンやタブレットは使ったことはありませんでした。歳を取るとスマートフォンやタブレットは必要がない、何の価値もないと勝手に思い込んでいました。しかし、私の周りでも使っている方が徐々に多くなり、それを見たり、聞いたりして、少しずつ関心を持ち始めていた時、私の住んでいる町から峠を越えて車で30分のコミュニティセンターで、講習会があるという案内がありました。いい機会だと思い、今後、きっと使うことがあるだろうと思い、受講しました。

私は、退職した後、漁業に従事して、自船で一本釣りや、素もぐり漁で生計を立てています。最近、インターネットショッピングをよく利用している友人にお願いして、魚群探知機を購入しました。インターネットショッピングは、時間や距離を短縮し、これを利用しない手はないと思いました。セキュリティについて勉強し、自分で利用したいと思っています。私は、漁師ですから魚介類を獲り新鮮なものを提供するのが仕事です。漁をしながら、お客様に新鮮な魚介類の情報を、リアルタイムで発信していきたいと思っています。お客さんも生産者の顔が分かり、すごく合理的であると思います。



また、私は高齢者クラブの役員をしています。会員の皆さんに、「昔は高齢になると第一線から退き隠居するイメージがありましたが、今の時代は、インターネット等を利用することで、たくさんの友人ができ、新たな社会とのつながりができ、まだまだ、楽しく便利な世界がある。すばらしい生き甲斐づくりができる」ということを機会あるごとに話をしていきたいと思っています。

[事例1-4] タブレットで地域のボランティア活動の状況を発信

私は、PCを使って、地域活動の案内状・企画書・予算書等の文書作成や写真編集等を行っています。タブレット、スマートフォンの利用経験はなく、タブレットは、PCと何が違うのか？ 何ができるのか？ 情報を容易に発信する方法等を知りたくて、講習会に参加しました。そして、タブレットは、持ち運びができ、どこでもタイムリーな情報の取得・発信ができることが分かりました。この便利さを地域のボランティア活動に活用しています。

- ・タブレットを利用できる仲間をつくるため、地区の女性部に呼びかけ、「NPO法人シニアネット光」から講師に招き、1月18日にiPad講座を開催（8名参加）しました。

- ・「伊保木楽々会」の活動で、平成22年10月から、「光市コミュニティ交通事業」を活用して、高齢化率の高い（61%）伊保木地区で、交通弱者の生活を支援しています。交通弱者の送迎の車中、タブレットで行事の案内や写真を見せ喜ばれています。高齢者自身が参加した行事は、興味をもって見て貰えます。今後は、動画も見せるようにしたいと思っています。



- ・伊保木道路見回り隊（平成26年度光市元気なまち協働推進事業の交付団体）として、緊急車両等の通行の妨げとなる「支障木等の伐採とその有効活用」活動を実施し、活動状況をFacebookへ発信しています。伊保木地区のファンや協力者を増やして地域の活性化につなげていきたいと思っています。

12月16日 編集済み

光市の平成26年度の元気なまち協働推進事業交付団体「いおき 道路見回り隊」は、「支障木等の伐採とその有効活用で 一石二鳥」で、緊急車両等の通行の妨げとなる道路沿いの支障木等の伐採を実施すると共に伐採した木の有効活用に取り組みました。

1. 支障木の伐採（写真：傾いて倒れそうな大木を伐採した前後の風景）
 - ①室積伊保木地区の4自治会（五軒屋、東伊保木、西伊保木、岩屋）
 - ②11月16日と11月30日に実施（概ね各自治会で半... 続きを読む）

いいね！20件 コメント1件

いいね！ コメントする シェア

[事例 1-5] 外国人に日本語の筆順を教えています

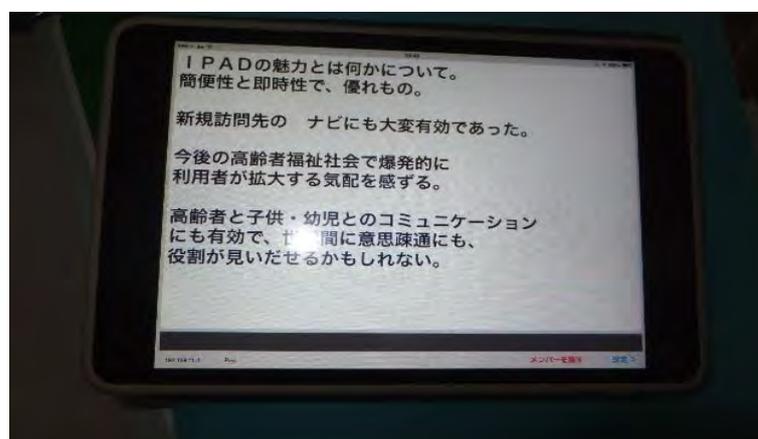
私は、携帯電話を、緊急用として「ガラ携」を保有していますが、メール連絡以外に、特別必要性を感じることはありませんでした。最近になって、インターネット接続可能なスマートフォンに興味を覚え、持ち運び可能で大画面の iPad mini を購入しました。しかし、実際には活用する方法が解らず、かつ、必要性を感じることなく月日が経ってしまいました。タブレットの講習があるとの情報をキャッチし、早速、応募しました。

私は、定年前後の頃から社会との接点を持つために、いくつかのボランティアグループに属しており、今回の受講を通じて、各種アプリケーションの検索方法がわかり、現在行っているボランティア活動に役立てています。また、講習会終了後、大垣市でタブレット持込みの講習会が開催されたとき、サポート役を頼まれたので、2回担当し、新たな勉強ができました。

- ・(公財)大垣国際交流協会で、ブラジル人や中国人等の外国人(市内には約6千名在住)に日本語を教えています。「筆談パット」(アプリケーション)で日本語の筆順を教えると、良く理解できたと喜ばれます。



- ・(社会福祉法人・大垣社協)聴覚障害者支援グループで、パソコンによる文字通訳(要約筆記)を勉強しながら、実際の活動にも参加しています。まだ、個人的なテスト段階ですが、「IP Talk Viewer」(アプリケーション)を搭載したタブレットに別のパソコンから講演内容等を同時通訳的に送信すれば、聴覚障害者にとっては、大きなメリットがあると考えています。



(2) 受講者又はシニアボランティアの講師等から好評であった講習会の取扱い

[事例2-1] 受講者の興味を引付ける標準カリキュラムの内容

本講習会の実施に当たっては、講習会を実施する地域によって講習内容のバラツキが生じないように、標準カリキュラムの作成に当たっては、有識者の知見を取り入れ、標準カリキュラムを作成しました。

また、“ICTは、便利、簡単、楽しい”を実感してもらい、次回の講習会に行くのが、待ち遠しいと感じてもらえる講習内容にしました。

標準カリキュラム(表3参照)は、1コマ目は“学んで体験”、2コマ目は“便利に使う”、3コマ目は“趣味で活用”、4コマ目は“成果と応用”と講習の主題を定めて、該当する講義内容を選定しました。

標準カリキュラムには、実際のインターネットを利用した情報収集などの体験型学習、SNSなどによるコミュニティへの参加方法、新規コミュニティの立ち上げ方法の解説、グループ学習による身近な課題発見、成果発表を収録しました。

標準カリキュラムの作成に当たっては、単にICTのスキル習得に留まらず、趣味等を通じた交流や就労、起業、地域の課題解決への取組など、高齢者は十分に活躍できる戦力であることを気付かせ、行動の動機付けを行うとともに、講習を通じて自らが社会に貢献できる実感が得られる内容としました。

表3 標準カリキュラム

回数	講義(項目)	講義内容
第1日目 (1コマ目)	第1講義 (タブレットの知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用すると便利な事例の紹介 ・ICTを活用による身近な社会参画の事例紹介 ・受講者の自己紹介を兼ねたICTの使用体験の発表
	第2講義 (基本動作)	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの基礎操作(電源オン・オフ等) ・いろいろな設定の方法(音量調整等) ・ウィンドウタッチの操作 ・キーボードの操作、音声入力の操作
第2日目 (2コマ目)	第3講義 (インターネットの利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでできることの紹介 ・インターネット接続 ・電子メールの利用方法 ・テレビ電話の利用方法 ・ウェブの利用方法 ・インターネット利用に当たっての留意事項
第3日目 (3コマ目)	第4講義 (趣味での活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・FacebookやSNSの利用方法 ・動画と写真の利用方法 ・撮影場所のマッピング方法 ・電子書籍の利用方法 ・その他趣味に使えるソフトウェアの紹介
第4日目 (4コマ目)	第5講義 (成果発表と応用)	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート検索の利用方法 ・成果発表(受講者を3グループに分け、自宅等から指定避難場所までの避難ルートを作成し、その結果をグループ毎に発表する) ・便利な利用方法及び趣味、就労・起業、社会参画等へのICT利活用に関する討議と発表

[事例 2-2] グループ実習・討論・発表は、コミュニケーション形成に有効

4日目の第5講義では、効率的な講義の進行と受講者の社会参画の動機付けを促進するためにグループ学習を取り入れました。

具体的には、受講者を4名程度のグループに分け、自宅等から指定避難場所までの避難ルートを作成し、危険箇所をチェックして避難ルート作成するグループ学習、タブレットの便利な利用方法や、趣味、就労・起業、社会参画等に関し討議するグループ討論と成果発表を実施しました。成果発表は、グループ討議の成果を皆さんの前で発表するもので、通常のICT講習会のカリキュラムにはないユニークなものです。

このグループ学習は、受講者同士の教え合いや学び合いにより、受講者の理解を助けるメリットもあります。そして、限られた通信容量下で行う講習会では、効率的な方法です。

一方で、講義型式と比較して時間を要する場合がありますので、カリキュラムの内容で使い分ける必要があります。



[事例 2-3] 実施地域に密着した講師で、受講者はリラックスして受講

本講習会は、地域で効果的かつ継続的な開催が可能となるよう、自治体の支援を得ながら、地域に密着してICT講習会の開催等の活動を行っているシニアネット団体等と連携して実施しました。

講師には、シニアネット団体から推薦を得た“高齢者向けのICT講習会の講師経験をもつシニアボランティア”を採用し、アシスタントを務めるICTサポーターもシニアネット団体の紹介で採用しました。その結果、受講者に馴染みやすく、講義内容も実施地域の特質に合わせて行うことができました。受講者からは、「受講前、受講に対する不安があったのですが、講師の先生やアシスタントの方々も、同地域の同年代の方で、ホットした気持ちになりました。また、操作で分からないこと、その他、色々なことを積極的に聞ける環境は、すごく安心でき、リラックスして受講できました。」というアンケート結果を多く得ました。



[事例2-4] 事前の講師講習会で、講師のスキルアップと講義レベルの統一

本講習会では、シニアネット団体から推薦された講師候補者に対して、講師用研修教材（上段は受講者用研修教材のテキスト内容を記載、下段は講師が理解すべき、講義内容の目的、説明のポイント、諸注意事項を記載）を用いて、事前に1コース4コマ分の講師用講習を2日間かけて実施しました。なお、講師候補者を指導する講師は、本実証事業を請け負った「一般財団法人ニューメディア開発協会」で養成しているシニア情報生活アドバイザーのうち、特に、ICTに関する教育と指導に経験豊富な人材であると認定された者を派遣し、講師講習会を実施しました。そして、講習修了者に対して、講師を委嘱しました。その結果、講師のタブレットに対するスキルアップを図ることができ、講義レベルの均一化を図ることができました。

<講師用研修教材の例>

第1日目 ~ 学んで体験 ~ 第1講義 はじめに

開会及びオリエンテーション(1)

- 開会挨拶
- 講師/アシスタントの自己紹介
- 講習会の目的
 - 必要とする情報をタブレット端末で探す方法を習得
 - 特定の人にタブレット端末で自分の気持ちや作品(写真、絵など)を送る(伝える)方法、受け取る方法を習得
 - 多くの人にSNS等を利用して自分の気持ちや作品を伝える方法を知る
 - タブレット端末を趣味に興ずるための道具として扱う方法を知る
 - ICTを活用し、社会参加のきっかけを作る。



開会及びオリエンテーション(1)

- 開会挨拶
 - ◆本事業(講座)の概要説明
 - 本事業(講座)は総務省平成26年度「ICT活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」事業として、一般財団法人ニューメディア開発協会が各自治体、及び地域の協力を得てICTサポーターを養成し、各地で高齢者向けICTリテラシー講座を実施するものです。4回計12時間の講座ですが、高齢者がICT機器に慣れ親しみ、生活を豊かに便利に、そして地域と積極的に関わっていただくきっかけになれば幸いです。
- 講師/アシスタント自己紹介
 - ◆名前、及び日常、ICTスキルを活かした趣味や活動内容を1、2分で説明
- 講習会の目的を説明
 - ◆目標(目的)
 - 高齢者がICT機器の操作、利用方法を習得することで地域・社会との連携・連絡が密になり、学びの場への参加、そして買物支援や認知症予防、その他日常生活の安心・安全の向上にも役立ち、社会参加への道が広がる事を目標とします
 - ◆具体的な目標
 - ①インターネットを利用して、目的を持って必要とする情報を探するためのタブレット端末の扱い方を習得する
 - 例えばインターネット閲覧ソフト(Safari)での閲覧方法やルート検索、ネットショッピングの方法、そしてインターネット利用上の注意点やマナー等を学びます
 - ②特定の人にタブレット端末で自分の気持ちや作品(写真、絵など)を送る(伝える)方法、受け取る方法を習得する
 - 例えば、電子メール、Facetime等の扱い方を理解します
 - ③多くの人にSNS等を利用して自分の気持ちや作品を伝える方法を理解する
 - 例えば世界中で利用されているFacebook等の特徴を理解します
 - ④タブレット端末を趣味に興ずるための道具として扱う方法を理解する
 - 例えば、読書する、音楽を聴く、絵を描く等、これらの扱い方や楽しみ方を学びます

第2日目 ~ 便利に使う ~ 第3講義 インターネットの利用

インターネットでできること



第3講義では、インターネットの活用について学習します。

インターネットでは、どんなことができるかについては、第一講義の「ICTを活用すると便利な事例の紹介」で学習しました。

この講義では、インターネットを活用する上で不可欠なインターネット接続の確認の方法、コミュニケーションツールのテレビ電話、メールの送受信、webの活用として、旅行ルート検索、インターネットショッピングについて実際に体験していただきます。

このスライドにもありますように、タブレットを活用すると、わたしたちの生活を快適に、楽しく、人との繋がりを容易に強くできる、多くの情報の共有ができるなど、社会参加の機会を促進できる効果があります。

※第一講義の「ICTを活用すると便利な事例の紹介」で紹介された内容について、再度、理解できたか伺ってください。

理解できていなかったら再度紹介してください。

※それ以外の関心のあるものを伺って、タブレットを使用してインターネットで出来ることを各アプリを使って説明しましょう。

[事例 2-5] 受講者 4 名に 1 名以上の講師を配置し、密度の濃い指導

本講習会では、受講者 4 名に 1 名以上の講師を配置しました。さらに、シニアネット団体の紹介で採用したアシスタントの ICT サポーターを 2 名以上配置し、密度の濃い指導、気軽な質問、タイムリーな回答等が可能な指導体制の下で、本講習会を実施しました。講師の指導については、受講者の 69% から「わかり易かった」という評価を頂きました。そして、「操作で分からないこと、その他、色々なことを積極的に聞ける環境は、すごく安心でき、リラックスして受講できました」という多数のアンケートの回答を得ました。



[事例2-6] 受講者の募集広報の工夫で、多数の応募者多数

本講習会の応募者の募集は、自治体及び地域に密着してICT講習会の開催等の活動を行っているシニアネット団体等の協力を得て実施しました。

各地域で実施した募集では、市の広報紙(誌)への掲載、印刷したチラシの公共施設への設置及び当該チラシの関係機関や団体経由での配布を行いました。応募者の70%が「市の広報を見て応募した」か「チラシを見て応募した」でした。なお、全体の受講応募者は、定員(990人)の1.7倍の1,680人でした。前述の他、地域によっては、次のような方法で募集して、効果を上げました。

- ・市の広報紙(誌)では、字数制限があるので詳細を明示できない。住民は広範囲に住んでいる。住民はチラシを見る機会が少ない。そのため、チラシを広報紙(誌)に差し込んで、全世帯に配布しました。同様に、回覧板で、全世帯に周知しました。
- ・マスコミと連携し、新聞記事(「愛媛新聞」(2014年9月10日)、「福井新聞」(2014年12月11日))に掲載してもらったり、地元のケーブルテレビ(「坂井市ニュース」、2015年1月21日～1月31日)で放映してもらったりしました。マスコミで取上げられた後の講習会には、多数の応募がありました。

回 覧

栃木市高齢福祉課

シニア向け ICT(タブレット)活用講座のご案内

この度市では、日常生活の中で、高齢者が安心・安全に ICT (タブレット操作等) を学び、さらには ICT の積極的な活用により、就労、ボランティア活動、地域課題の解決に向けた活動促進等、その機会を創るための講座を開催します。お気軽にご参加ください。

講座のスケジュール等は下記の通りとなります。

なお、講座は第1・第2コースのどちらからでも4履を受講していただきますので、ご都合のつくコースにご参加ください。

記

	日 程	時 間	
第1コース	9月26日(金)	1 限目	午前9時30分～午後12時30分
		2 限目	午後1時30分～午後4時30分
	10月3日(金)	3 限目	午前9時30分～午後12時30分
		4 限目	午後1時30分～午後4時30分
第2コース	10月10日(金)	1 限目	午前9時30分～午後12時30分
		2 限目	午後1時30分～午後4時30分
	10月16日(木)	3 限目	午前9時30分～午後12時30分
		4 限目	午後1時30分～午後4時30分
会 場	栃木保健福祉センター レクリエーションルーム (10月16日のみ ボランティアルーム) (栃木市今泉町2-1-40 ☎0282-25-3511)		
定 員	各回ともに15名		
受講料	無料		
機 器	講座に必要な機器はこちらで用意します		
内 容	1限目: タブレットの知識と基本動作 2限目: インターネットの利用、メール、テレビ電話、WEBの活用 3限目: ネットサービスの利用、動画と写真、電子書籍の利用 4限目: ルート検索、避難場所検索等、その他応用		

第1コースは9月24日(水)、第2コースは10月6日(月)までにご連絡ください。

●申し込み・問い合わせ先(実施団体)
 栃木市片柳町2-2-2 特定非営利活動法人 栃木県シニアセンター
 電話: 0282-20-3322 FAX: 0282-20-3355 mail: tochi-senior@cc9.ne.jp
 ※申し込みの連絡は、平日 13時から 16時迄にお願いします。

◎10月～11月の期間中、別の会場・日程で開催を予定しておりますので、参加を希望される方はお問い合わせください。

[事例 2-7] 受講者通知の工夫で、間違いや安易な欠席の防止

本講習会の受講者は、多数の応募者から、地域毎に65歳以上の高齢者を優先して採用しました。そして、当落を、応募者全員に通知しました。一般的な通知方法は、電話又はFAXです。受講者の一部は、「自分の申込んだ月日を忘れてしまう」、「自分の受講日時を間違える」、「せっかく選定されたのに安易に欠席する」等の問題が発生することがありました。その防止対策として、募集受付から講習会初回までの間に、次のような方法で通知を行い、欠席防止等の効果を上げました。

- ・ 往復葉書で応募を受け、返信葉書で、当落を知らせ、特に、当選者には、講習会の日時・会場・各種注意事項等を記載しました。
- ・ 当選者に、FAX、葉書又は郵便で、講習会の日時・会場・各種注意事項等を連絡しました。(受講決定の案内)
- ・ 受講日の2～3日前に、“受講可能か否か”の再確認の電話を入れて、欠席の防止を図りました。
- ・ 受講初日に、受講者に、「受講者登録票」を発行して、欠席の防止を図りました。

<受講決定の案内>

ICTシニア・タブレット講習会
— 受講決定のご案内 —




【受講者】

氏名	藤川 川太郎 海彦
住所	下都賀郡長久保町○○番地○

【受講内容】

コース名	海洋文化ゾーンA (3-A)
受講会場	長浜地区コミュニティセンター
受講料	無料

【開催日程】

第1日目	平成26年10月22日(水)	15:30から18:30まで
第2日目	平成26年10月23日(木)	9:00から12:00まで
第3日目	平成26年11月1日(土)	15:30から18:30まで
第4日目	平成26年11月2日(日)	9:00から12:00まで

【お問い合わせ】

- ※ 受講当日は、開演時間30分前までにお越しください。
- ※ 受講当日、都合が悪い場合は、ご連絡ください。
- ※ 筆記用具は、ご持参ください。
- ※ 受講会場は、別紙「位置図」をご確認ください。
- ※ 講習内容は、別紙「講習会の標準カリキュラム」をご確認ください。

—お問い合わせ—
 長浜市市民局政策情報課
 電話番号 0996(23)5111
 内線 611
 Eメール chikuhokoku@city.saitama.lg.jp
 FAX 0996(21)1399

<往復葉書での応募・通知>

郵便はがき

911300056

910-0246

坂井市三田町宿

様

ICT(タブレット)活用講座
受講者選考結果のお知らせ

この際、ICT(タブレット)活用講座にご応募いただき、有難うございました。
 選考の結果、あなたは抽選で受講出来ることになりました。おめでとうございます。お申し込みのコース・日程は下記の通りです。

- 会場 第一会場 三田図書館
- コース 第一コース
- 開催日
 - 12月10日(水) …1コマ目
 - 12月12日(金) …2コマ目
 - 12月17日(水) …3コマ目
 - 12月19日(金) …4コマ目
- 時間
 - 午前9時30分～午前12時30分
- その他
 - 講座に必要な機材・テキストはあらかじめ用意します。

特定非営利活動法人
いきいきICTクラブ
理事長
電話 0776-66-0876

ICT(タブレット)活用講座
受講者選考結果のお知らせ

この際、ICT(タブレット)活用講座にご応募いただき、有難うございました。
 今回の抽選で、残念ながら受講出来ませんでした。募集要項に記した結果、あなたは残念ながら落選者から、はずれましたのでご連絡いたします。

特定非営利活動法人
いきいきICTクラブ
理事長
電話 0776-66-0876

<受講者登録による手続>

シニアのためのタブレット講座 第1コース受講者登録

No.	氏名	住所	電話番号	年齢	登録名/機番番号	アドレス
1	アヲダテ	〒			登録名/講習機番番号/001	snig01nm@icloud.com

受講者登録について

- 受講登録に際して頂戴いたしました個人情報、講座運営のほか総務省が実証実験検証に使用することがあります。いずれも個人情報として保管・管理をいたします
- 講座受講に際しては、自己都合による安易な欠席(身体不調及び緊急要件を除く)が無いようにお願いいたします。毎回受講後に、無記名でアンケートの記入をお願いいたします。(実証実験データとして収集いたしますので、ご協力をお願いいたします)
- 全4回の限られた時間の講座です。理解途中でも、全体のスケジュールを優先して進める場合があることをご了承ください。

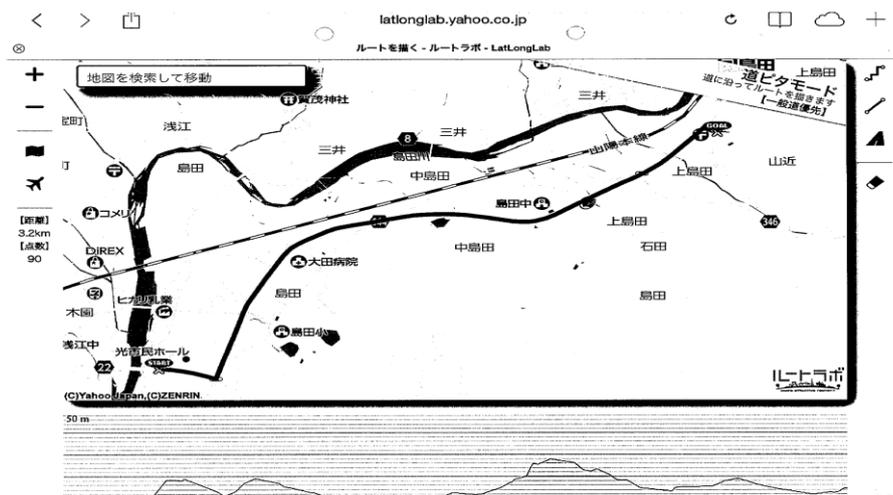
以上のことを理解の上、本講座に申込みいたします。

平成 27 年 2 月 2 日

署名

[事例 2-8] 自治体の防災担当の協力を得て、地域の実際の防災対策を体験

「自宅から避難場所までの避難ルートをマップ上に作成」の学習テーマにおいて、ある自治体では、防災に関する関心を高めるため、自治体の防災担当を招き、出前講座として講座を行いました。講習会実施地域の実際の防災対策を実感することができ、また、行政と市民との交流の場にもなりました。



[事例2-9] グループディスカッションにKJ法を取入れて好評

「タブレットの利用方法、趣味、就労・起業、社会参画等での利用方法に関する討議」では、グループディスカッションを行い、ディスカッションの結果を各グループそれぞれが発表し、更に全体で意見交換を行いました。

ある自治体では、グループディスカッションに、KJ法（データをまとめるために考案された手法で、KJは考案者のイニシャル。データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて、図解、論文等にまとめていく。創造的問題解決に効果がある。）を取入れ、討論や取りまとめに効果を上げました。本技法は、その後に行われた他の自治体の講習会のグループディスカッションにも採用しました。



第4日目 ~ 成果と応用 ~ 第5講義 成果発表

F2-2

タブレット利用の可能性について

■今後有用と思われるタブレットの利用～グループディスカッションの結果～

[1] タブレットを使って生活を便利にする

- ① テレビ電話
- ② 一人暮らしの人の買物の助け
- ③ 店舗場所を皆に知らせる

[2] タブレットを使って楽しむ

- ① 自治会旅行の写真と共有して皆で楽しむ
- ② 電子書籍の読書購入
- ③ 町内旅行の検索

[3] タブレットを使って社会参画や社会貢献

- ① 自治会親会を閉く案内を全員にメール送信
- ② 災害時の伝呼確認
- ③ 災害時の連絡網を作る

教室名: Fコース
グループ名: 1班
記入日: 2014.12.25

3. 「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」の進め方と留意点

3.1 講習会の実施計画等

(1) 講習会実施計画書の作成

講習会は、具体的な計画を立案して実施することが重要です。現状の課題を把握し、その課題を解決するため、実施目的及び実施目標を定め、それを実現するための各プロセスを設計して実施計画として取りまとめます。

継続的な講習会であれば、講習会終了毎に実施計画を見直すことが有効です。

講習会の実施計画は、必要に応じて、ICTリテラシー等に関する有識者（講習会の開催の経験があるシニアネット団体等）の助言等を受けることも効果的です。

・実施目的を明確に決める

講習会を実施するに当たり、背景及び必要性等（課題）を踏まえて、実施目的を明確に決めましょう。

目的の違いによって、計画内容に違いが発生するので、受講対象者、研修教材等に変更の必要性が生じる場合があります。

(ポイント)

- ・実施目的が“単にICTリテラシー教育を実施する（操作技術の習得が中心になる）”又は“ある目的のためにICTリテラシー教育を実施する（操作技術に加え、ICTを利活用して何に使うかの習得が必要となる）”のいずれであるかを検討します。これにより、標準カリキュラム、研修教材、受講者募集要項等の内容が変わります。【関連：26頁、34頁、37頁】
- ・操作技術の習得を受講目的と考える受講者が多いので、実施目的を明確に定めることが重要です。
- ・講習会実施者と受講者の間で目的意識が異なる場合、講義内容に対する不満（講義の速度が早い／遅い、講義内容が易しい／難しい）につながりやすいため、募集時に実施目的を明確に伝えます。【関連：37頁】

(本実証事業での事例)

本講習会の場合は、高齢者がICTを日常生活で、楽しく、便利なツールとして利活用し、コミュニティ形成やボランティア活動等地域社会への参画につなげるために、ICTリテラシーの向上に資することを目的としました。

・講習会の実施目標を明確に決める

講習会を実施するに当たり、実施目的を踏まえて、可能な限り、定量的に実施目標を明確に決めましょう。

また、講習会が単発のものか、又は継続的なものかで、実施目標の設定方法も異なります。

(ポイント)

- ・ 実施目標は、講習会終了時に評価が出来る目標とすると有効です。講習会終了後、数年経過しないと評価できないような目標はなるべく避けましょう。
- ・ 目標は、1つとは限りません。実施目的や課題解決のために行った現状把握の結果等から設定すると有効です。

(本実証事業での事例)

本講習会の場合は、OECD国際成人力調査(PIAAC)の「ITを活用した問題解決能力」の結果が低かったことに着目し、「ITを活用した問題解決能力」の「習熟度レベル1：電子メールソフトやウェブブラウザなどの汎用的なアプリケーションを利用して、自分で必要な情報へのアクセスや情報交換を行い、問題解決する操作ができるレベル」を目標とし、講習会終了時のアンケート結果から達成度を評価できるようにしました。

・講習会を実施する資源の前提条件を数字で明確に決める

講習会を実施するためには、金銭的資源・物理的資源・人的資源等が必要です。講習会の実施目的及び実施目標を鑑み、資源の数的前提条件を明確にしましょう。

[対象資源]

- 講習会の実施予算
- 受講対象者(年齢/性別)及びその人数
- 開催月日、講習時間、講習回数、休憩のタイミング
- 講習場所、設備、機材
- 講師数、ICTサポーター数

(本実証事業での事例)

実証フィールドである11自治体のうち、5ヶ所を前半グループ(平成26年9月から平成26年11月まで実施)、6ヶ所を後半グループ(平成26年12月から平成27年2月まで実施)に分けて実施しました。

講習会の会場は、各自治体の行政区域内に存在する3か所を選定し、1か所当たり、約1か月間(2コース)の講習を行い、次の会場に移動するようにし、合計約3か月間の講習を実施しました。各会場では、1コマ3時間程度の講習を全4コマ、これを1コースとして、同じ内容の講習を2コース(例えば、午前/午後)実施しました。また、各コマは、週1回のペースで実施しました。

各コースともに、受講者数は15名を基本としました。各自治体3会場で、同じ内容の講習を3か月間で6コースを実施し、各自治体の目標受講者数は、90名を基本としました。

講習会で使用するタブレットは、iOS及びAndroid OSを選択しましたが、各自治体で使用するOSは、一つのOSに統一しました。

講師は、受講者4名に対して1名以上の講師を配置しました。ICTサポーターは、各講習会に2名以上を配置しました。

・講習会の実施にかかる費用は、詳細に見積る

講習会を実施するためには金銭的資源が必要です。経費は、詳細に見積りましょう。

[見積対象項目]

- 講習会の計画立案、実施、とりまとめ等の人件費や旅費
- 講習場所（設備使用料を含む）の使用料
- 講習機材・備品等（通信料、プロバイダー料、運搬費用を含む、購入／レンタル・リース等の調達）の費用
- 受講者用研修教材（検討／執筆、印刷）の費用
- 講師用研修教材（検討／執筆、印刷）の費用
- 募集／受付（チラシ等、通信、葉書）の費用
- 講師の育成費用（講師育成に係る指導者の謝金や旅費等）
- 講師の人件費（謝金）や旅費
- ICTサポーターの人件費（謝金）や旅費
- アンケート（検討／作成、印刷、集計）の費用

(ポイント)

- ・金銭的資源は、実施計画に沿って、項目毎に、詳細に、かつ、効率的に見積る必要があります。例えば、機材の調達方法は、購入／レンタル・リース等があります。どのような調達方法にするかは、機種・台数・使用期間・使用アプリケーション等を考慮しながら、コスト効率を含めて検討します。

【関連：32頁】

(本実証事業での事例)

本講習会は、実証事業という性格上、限られた予算の範囲内で、如何に多様な環境で事業を実施できるかが鍵となります。そのため、上記の「見積対象項目」について検討することは当然として、特に、タブレット端末の台数を決定するに当たり、機器の利用パターンをシミュレーションして、必要最小限の台数に絞りました。

・講習会の目的に見合った受講料を決める

受講料を有料とする場合は、講習会の実施目的及び講習内容等から、そして、受講者が高齢者であることを考慮して受講料を決めましょう。

(ポイント)

- ・自治体が実施する場合、受講者に、会場使用料や講師謝金の実費の一部を負担させたり、予算の不足部分を負担させたりする方法が想定されます。
- ・最初に、体験講習を行うケースもあります。体験講習の場合は、宣伝の意味も含め、“ワンコイン”程度の受講料を徴収しています。興味を持った受講者に対して、別途、本格的な講習を行う民間の例があります。 【関連：27頁】

(本実証事業での事例)

本講習会は、国の実証事業でしたので、受講料は無料にしました。

・講習会の開催時期、曜日等は、受講者が集まる時期・日時等を考慮して決める

講習会の開催時期・曜日等は、開催地域の事情に合わせ、受講者が集まりやすい時期・日時を考慮して決めましょう。

講習会の開催場所や講師等との事前の調整が必要です。

(ポイント)

- ・開催地域の事情にもよりますが、例えば、農繁期・冬季の厳寒期・台風時期等は、出来る限り避けましょう。
- ・高齢者は、家族との対応・趣味や地域活動等で、休日は逆に忙しく、講習会は平日に開催して欲しいという要望があります。
- ・夜間帯の開催は、公共施設の利用時間の制限や高齢者の移動時の危険性から避けた方が賢明です。
- ・講習会の会場として公共施設を利用する場合は、休館日や申込み方法（数ヶ月前に、抽選で決定等）の事前調査が重要です。 【関連：30頁】

(本実証事業での事例)

本講習会の場合は、講習会会場の提供を前提条件に、本実証事業に協力頂ける自治体を選定し、お願いしました。そのため、講習会会場の確保に当たっては、各自治体の担当者に申込み等で多くのご配慮を頂きました。

講習会は、会場毎に2コースとし、1コース当たり全4コマの講習を土・日曜日又は祝日を含め開催することを想定しました。実際には、会場確保の関係、講習会を実際に実施する運営協力団体の都合及び経験から、大部分は、2コースの講習会を同一日の午前及び午後を開催し、一部、1日に2コマ（午前及び午後各1コマ）の講習会を開催する地域がありました。なお、一部の地域では、土曜日に開催しましたが、大部分は平日に開催しました。

・講習会関係者の事前の意識合わせを行い、実施するための基本的な運用ルールを決める

講習会の関係者は、主催者、講師、ICTサポーター等多岐に及びます。計画の早期の段階で、講習会の実施目的及び実施目標について、全員の意識を統一することが必要です。また、可能な限り、受講者のニーズを収集し、講習会の開催計画が立案できれば、より効果的です。

(ポイント)

- ・講習会の開催時、色々な事象が発生する可能性があります。予想される事象とその事象に対する運用方針や対策等のルールを決めて、関係者と共有し、統一した運用を行うことが重要です。さらに、講習会実施時の改善点のフィードバックに対し、関係者間の情報共有も重要です。 **【関連：45頁】**

(本実証事業での事例)

本講習会の場合は、本講習会の実施計画や運用ルールの基本は、総務省の同意を得て決定し、各自治体と地域の運営協力団体と調整した上で、関係者に周知徹底を行いました。

そして、各講習会の詳細については、可能な限り、講習会の実施を担う自治体と運営協力団体の意見やノウハウを取り入れ、実施者が実施しやすいよう配慮しました。

(2) カリキュラムの作成

講習会のカリキュラムの作成は、講習会の実施において、最も重要なプロセスです。講習会の実施目的及び実施目標を踏まえ、効率的に実施できる内容にしましょう。

講習会のカリキュラムは、実施計画と関係します。必要に応じて、受講者のICTスキルに合わせ、基本コース、応用コース等の複数コースを作成する方法も効果的です。

講習会のカリキュラムについては、必要な都度、ICTリテラシー等に関する有識者や講習会の実施経験者等に指導・助言等を受けることも効果的です。

(ポイント)

- ・本実証事業で開発、使用したカリキュラムやテキストは、総務省のホームページから入手可能です。これらのテキスト等を利用する場合は、地域の地図に差替える等、地域の特徴に合わせたテキストに修正して実施すると有効です。 **【関連：43頁】**
- ・講習会を、間隔をおいて複数回実施する場合は、講習会実施毎に明らかになった改善点をフィードバックすると効果的です。 **【関連：45頁】**

(本実証事業での事例)

本講習会の場合は、カリキュラムの作成は、講習会を同時期に複数地域で実施するため、基本となる「標準のカリキュラム」を作成しました。

「標準のカリキュラム」は、ICTリテラシー等に関する有識者・経験者に指導・助言等を得て作成しました。

講習会は、前半と後半にグループ分けして実施しました。前半グループの講習会で明らかになった課題を適宜、「標準カリキュラム」や「受講者研修教材」にフィードバックしました。

・講習会に出席したくなるようなカリキュラムにする

ICTは、目的を実現するためのツールであり、その利活用が重要であることを理解させましょう。そこで、ICTは「便利である／役に立つ／楽しいこと」を実感させた後、難しい操作に進むと効果的です。

タブレットの講座では、受講者の大半がタブレットを所有していないので、まずは、触れて親しむ、そして、簡単に使えるという講義内容から始め、その後、タブレットを使い続けたいと思ってもらえるような講義内容に進むと効果的です。

(ポイント)

- ・高齢者の受講目的は、就活のような経済的な理由は、ほとんどありません。そのため、安易に欠席したり、受講を辞めることが散見されます。特に、無料の場合はこの傾向が強いようです。

【関連：42頁】

(本実証事業での事例)

本講習会では、次のような「標準カリキュラム」を作成して実施しました。

◆第1講義～学んで体験～ (ICT活用事例紹介)

タブレットが高齢者にとって有用なICT機器であり、情報の取得やコミュニティへの参加を容易にし、高齢者でも地域への社会参画できる機会があることを理解させる。

◆第2講義～学んで体験～ (基本操作)

電源のオン・オフ、画面へのタッチ方法等、基本的な入力方法を習得する。

◆第3講義～便利に使う～ (インターネットの利用)

インターネットにアクセスすれば、多くの情報が容易に得られ、メールやテレビ電話等が安否確認手段として、また高齢者自身の孤立を防止するためにも有用であり、オンラインショッピング等の利用により利便性が向上することを理解させる。

◆第4講義～趣味で活用～ (楽しい使い方)

Facebook等SNSへの発信、趣味によるサークル活動等を通じて、社会参画の機会が増大することを理解させる。

◆第5講義～成果と応用～（ルート検索の方法）

自宅等から避難場所までの避難ルートのマップを作成し、生活の利便性の向上に留まらず、社会に対しても貢献できる可能性があることを理解させる。

・座学は短く、受講者のICT機器に触れたい気持ちを大切に

目の前にタブレットを置いたままで、テキスト等を使用した座学が長いと、厭きてしまいます。座学は短くし、タブレットに触れさせて講義するようにしましょう。

（ポイント）

・“テキスト等を使用した講義”と“ICT機器を操作しながらの講義”を組み合わせますが、可能な限り、操作の時間を多く取りましょう。【関連：43頁】

（本実証事業での事例）

本講習会では、タブレットで何が出来るという座学を簡単に済ませ、すぐに触ってみたいという受講者の要望に沿って、「日本地図パズル」を使って、楽しみながら、タブレットの操作に慣れてもらいました。

・講習は、高齢者の特性に合った質と量、復習についても考慮する

高齢者は、一つずつ納得が行くまで、ゆっくり、繰り返しの講習を望みます。教える量が多すぎると、講習を受けても結果的に何も覚えていません。

また、講習の間隔が長いと、前回の講習内容を忘れてしまいます。

このような高齢者の特性を考慮して、カリキュラム（講習内容と講習時間）を作成しましょう。

なお、講習会開始時には、前回の復習をカリキュラムに組み込むと効果的です。

（ポイント）

・高齢者に限らず、受講者は、タブレットと研修教材を自宅に持ち帰り講習会の学びを再現して、復習したいと考えます。しかし、タブレットを利用するためには、タブレットが利用できるインターネットの環境が必要です。また、途中で操作方法が分からなくなった場合、自ら解決できるとは限りません。そのため、自宅でのタブレットを使用した復習は簡単ではありません。したがって、自治体等が準備したタブレットを自宅へ持ち帰ることを許す場合は、事前に、タブレット貸与のルール、インターネットへの接続の対応法、サポート体制等を検討し、整備することが重要です。【関連：34頁、41頁】

（本実証事業での事例）

本講習会は、実証事業であったため、与えられた講習時間内に盛りたくさんのメニューを組み込む必要がありました。そのため、ICTに初めて接する受講者の中には、理解がでない受講者がいました。

また、本講習会では、多くの場合、同時期に2コースの講習を実施しているた

め、タブレットを自宅へ持ち帰ることは出来ませんでした。

復習については、前回の講習内容を復習し、思い出してもらいながら、次の新しい講義に入る方法で講習会を実施しました。

・講習は、ICTのリテラシー向上に関する内容以外についても考慮する

ICTの講習会では、講習目的以外の機器の選び方等の一般的な事項についての質問を受けることがあります。

ICTの操作や技術以外の内容も可能な限り、講習会で取り上げると有効です。

講義の時間に余裕がない場合には、研修教材（テキスト）に記載する方法でも効果的です。但し、掲載内容がすぐに陳腐化する場合は、掲載を控えましょう。

質問時間等を確保して、対応する方法も効果的です。

（ポイント）

- ・ ICTの操作や技術以外の内容、例えば、タブレットの選び方・価格・運用費用、利用するインターネット環境の選び方・構築・設定方法、アプリケーションの購入方法やダウンロード方法等についても教えて欲しいという要望があります。予め、想定されるQ&Aの準備や、可能であれば、地域のICT関係事業者や自治体の情報システム担当部署の協力を得て、質問対応を行うと効果的です。

（本実証事業での事例）

ICTの操作や技術以外の内容に対するQ&Aは、休憩時間等に、講師が自らの経験を活かして個別に対応しました。

（3）実施体制及び協力体制

講習会は、講習会を運営する関係者（主催者、講師、ICTサポーター等）と受講者の間の信頼関係がその成否を決定します。

受講者から信頼される実施体制と協力体制の構築が重要です。

（本実証事業での事例）

本講習会は、総務省から一般財団法人ニューメディア開発協会（本項目において以下「協会」という。）が実証事業として請け負いました。実証フィールドは、総務省が決定した11自治体から提供を受けた公共施設等を利用しました。

また、受講者の募集に関しては、自治体から広報紙（誌）掲載等の支援を受けて実施しました。広報紙（誌）は、周知効果及び実施主体の信用度の面で絶大な効果がありました。

講習会を短期間で円滑に実施するため、受講者の集客状況、利用機器の配備、撤収及び保管に関するスケジュール管理や、講習会全体の運営管理を行えるよう、協会内に実施チームを構築しました。

そして、このチームが、ICT講習会の開催等の活動をしているシニアネット団体等の中から本講習会に協力して頂く団体を、自治体と調整を図りながら決定しました。

また、このチームは、講習会の実務を担うシニアネット団体等と連絡を密にして、受講者の募集状況の把握、機器の配備、撤収及び保管状況等について情報共有を図りました。

・地域に密着したICT関係の活動を行っているシニア団体等と連携する

講習会は、受講者が信頼し、緊張せず、気兼ねなく受講できる環境作りが重要です。

講習会は、前準備や講習会終了後のフォロー等を勘案すると、“地元の、地元による、地元のため”の実施体制作りが有効です。

(ポイント)

- ・ 自治体が主催又は支援する講習会であれば、受講料の有無にかかわらず、高齢の受講者には、講習会を信頼して頂ける傾向にあります。 【関連：38頁】
- ・ ICT講習会の開催等の活動を行っている地域のシニアネット団体等の協力を得て、講習会を開催すると、きめ細かな運営が期待できます。
- ・ 講習会を行う講師、ICTサポーターが、同じ地域・価値観の人であると、受講生は緊張しないで、気兼ねなく受講することができます。

【関連：35頁、42頁】

(本実証事業での事例)

本講習会は、講習会を支援する自治体と地域に密着してICT講習会の開催等の活動を行っているシニアネット団体等の協力を得て実施しました。講習実務は、この団体が主体的に動いて頂くことで、受講者に対してもきめ細やかな対応がとれる体制を確立しました。

講師、ICTサポーターは、この団体から推薦を受けた、同じ地域の人に委嘱しました。

3.2 講習会の事前準備

(1) 会場の選定及び確保

講習会の会場は、会場の設備状況、特にインターネット接続環境の事前調査とその対策が重要です。

受講者が集まり易い、交通の便が良い所を選定すると効果的です

公共施設の利用料は、比較的安価ですが、休館日、使用可能時間、申込み方法等（例えば、3ヶ月前に、抽選で決定等）の制限があります。事前調査が必須です。

・会場の事前調査は、設備状況、特にインターネット接続環境が重要

講習会の会場の設備状況（スペース、机・イス、スクリーン、プロジェクター、コンセント数と容量、建物のインターネット接続環境状況（キャリアのサポートエリア、インターネットへの接続とアクセス制限等）、機器の保管場所等）の事前調査が重要です。

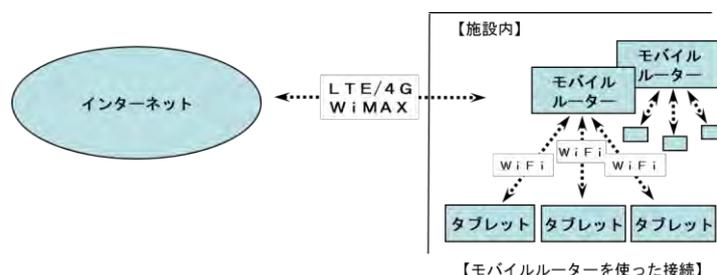
事前調査は、対策に必要な期間も考慮して早期に行いましょう。

特に、初めて講習会を実施する会場では、インターネット接続環境について、自治体の情報システム管理担当と連携するなど、関係者から情報を収集して、講習会の使用に支障がないことを事前に確認しましょう。

(ポイント)

- ・講習会の会場は、交通の便が良い所（例えば、公共交通手段でアクセスが可能、駐車場が完備等）を選定すると効果的です。
- ・インターネット接続環境については、机上確認だけでなく、講習会と同じ状態（使用するタブレット台数、使用するアプリケーション等を本番と同条件）で、事前に現地確認するのが有効です。【関連：41頁】
- ・無線を使用する場合は、建屋やその構造等が接続の可否に影響する場合がありますので注意が必要です。モバイルルーターをレンタルする場合は、本来、利用できるはずの通信機能が使用できないように制限している場合がありますので、特に確認が必要です。【関連：41頁】
- ・インターネットへの接続パターンは、大きく二つあります。
 - a) モバイルルーターを利用した接続
ネットワーク環境が整備されていない施設の場合は、モバイルルーターの利用（図2参照）が有効です。
この場合の手順は、次のとおりです。
 - ①通信キャリアがLTE/WiMAXサービスを提供していることをウェブなどで確認します。
 - ②サービスを提供している場合は、通信キャリアに適合したモバイルルーターを選びます。
 - ③その上で、選んだモバイルルーターで十分な通信速度が得られるかを確

認します。その確認には通信速度を測定するアプリケーションを一般のサイトからウェブ検索し、タブレットにダウンロードして利用することができます。



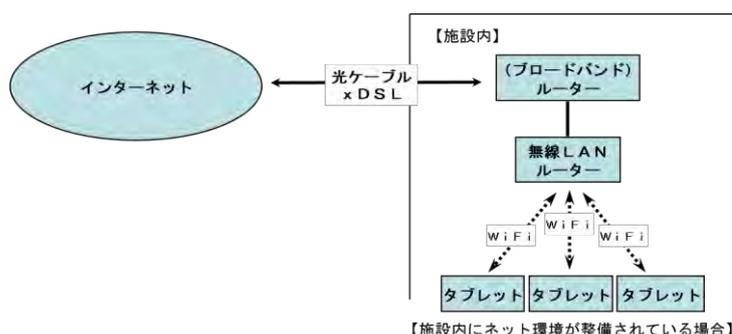
【モバイルルーターを使った接続】

図2 モバイルルーターを使用した接続

b) 無線LANルーターを利用した接続

ネットワーク環境が整備されている施設では、施設全体で無線LANが利用できる場合と、セキュリティの観点から一部のエリアでしか利用を許可していない場合が考えられます。

無線LANが一部のエリアでしか利用できない場合には、無線LANルーターの利用（図3参照）が一般的です。



【施設内にネット環境が整備されている場合】

図3 無線LANルーターを使用した接続

もし、無線LANが一部のエリアでしか利用できない場合であり、かつ、講座実施予定の部屋で使えない場合は、LANケーブルで延長するか、又は電波強度を補うため無線LANルーターを中継器として配置して部屋まで無線LANの利用できる範囲を拡張します。この場合、施設内で大容量のインターネット回線の使用を想定していない場合が考えられますので、施設に導入されている元回線のスピードが充分であるかも確認する必要があります。但し、施設のセキュリティポリシーによりネットワーク環境に対して回線アクセスが許されていない場合があるので注意が必要です。

(本実証事業での事例)

本講習会では、講習会会場として、公民館・図書館等の公共施設を使用しました。会場によっては、①「会場にインターネット接続環境が整備されていない。」、②「インターネット接続環境はあるが、自治体のイントラネット環境のみで、講習会で利用できる環境が整備されていない」等のインターネットへの接続

が講習会の開催に必ずしも十分でない状況が発生しました。

インターネット接続環境が整備されていない会場では、モバイルルーターを使用して対応しましたが、利用できない会場もありました。但し、これは、レンタルしたモバイルルーターが、本来、利用できるはずの通信機能が使用できないように制限設定されていたためであり、制限を外してもらうことで対応しました。また、同機種 of モバイルルーターでありながら、個体差でアンテナが立たないものもあり、別機種に変更して対応しました。アンテナが立たなかったモバイルルーターもその会場を離れるとアンテナが立ったことから、電波事情が通信に大きな影響を及ぼしていることが分かりました。また、一部のモバイルルーターでは、インターネット環境の確保が難しく、ネットワークが繋がらないことが受講者のストレスになりました。

会場にインターネット接続環境はあっても、一般には接続を許可していない場合もありました。このような会場では、自治体専用のLAN回線をマルチ接続にすることにより、講習会用のインターネット環境を確保しました。なお、講習会側の接続先のプロバイダーはその期間、一時的に契約しました。

さらに、地図や画像等を使用する講義では、同時アクセスにより負荷が高まり、接続が不安定になる事象が発生しました。トラフィックを低減するため、講師が実施して受講者に見せる講習方法に変えたり、受講者をグループに分けて、アクセスのタイミングをずらしたりする等の対策で対応しました。

(2) 使用機器の選定及び配備

講習会向けのICT機器は、多くの選択肢がありますが、高齢者向けには、タブレット端末が適しています。

使用するタブレットのOS、メーカー、調達方法等の選定は、十分な検討が必要ですが、複数の機種にすると費用の増大の可能性や講習会の運営に支障を来たす場合があることに留意が必要です。

・使用機器の選定と配備は、受講者目線で行う

講習用のICT機器は、主催者からの提供する場合、受講者が持ち込む場合がありますが、いずれの場合も、受講者個々が実機を使用して、受講できる環境にすると効果的です。

用意する機器の台数は、故障等への対応も考慮して手配することが有効です。

使用するICT機器の運搬や保管方法等の事前調整も重要です。

(ポイント)

- ・使用するICT機器の環境設定やアプリケーションのインストール作業（作業後の検証を含む）は、時間と手間がかかりますが、不可欠な作業です。事前に計画書に盛り込むことが重要です。

【関連：23頁】

・タブレット講習会では、液晶画面の清掃用布、タッチペン、イヤホン、スタンド等の備品の準備も重要です。特に、タッチペンは、高齢者の場合、タッチ操作でのトラブルが多いため、手書き入力対応のためにも有効です。但し、タブレットには、微弱な電気に反応する「静電式」と画面を押す圧力に反応する「感圧式」とがあり、その用途を含めて、適切なものを選択することも重要です。イヤホンは、講習会場では、音が混信して音声入力に支障が出るため、音楽・ラジオなどのアプリケーションを利用する講習に有効です。高齢者は音を大きくして聞くケースが多いです。スタンドは、Face time、カメラアプリを利用する際に有効です。 【関連：23頁、43頁】

（本実証事業での事例）

本講習会では、タブレットの特定のOSに依存した実証結果にならないよう、現在の国内のタブレット市場のシェアにおいて上位を占めるiOSとAndroid OSの二つの異なるOSを選択し、各地域で実施する講習会で使用するOSをいずれかのOSに統一しました。

タブレットは、実証フィールドである11自治体の地域を前半グループ（5地域）と後半グループ（6地域）の2つのグループに分け、各グループをiOSとAndroid OSの2つのグループに分けました。また、スケジュールの都合上、3地域同時並行で講習会を開催することを鑑み、iPad及びAndroidタブレットそれぞれについて45台（3地域×15受講者）を配備しました。さらに、タブレットが故障した場合に備え、予備のタブレット及び講師が使用するタブレットも配備しました。その他、講習会に必要な機器として、無線LANルーター、プロジェクター、プリンタ等も故障時の予備機器を加えて配備しました。

なお、予め、無線LANルーターとタブレットとの間の設定、Gメール等のアカウント設定、講義に使用するアプリケーションの設定などを行い、併せて、事前の動作確認も実施しました。

（3）受講者用研修教材及び講師用研修教材の作成

受講者用研修教材（テキスト）は、講習会の目標・目的を考慮して、カリキュラムに沿って作成します。

作成する際には、ICTリテラシー等に関する有識者・経験者に指導・助言等を受けることも効果的です。

継続的に講習会を実施する場合は、講習会終了毎の反省やアンケート結果を反映すると良いテキストとなります。

講師用研修教材は、講習内容の統一性を図り、また整合性を確保するため、受講者用研修教材をベースに、講習に必要な具体的な作業（例えば、受講者の出欠の確認、自己紹介、講習の注意事項、アンケートの実施等）、講習の内容、進め方等の講習のポイントを記載し、講習会の講師を務める際の指導書とすると効果的です。

・受講者用研修教材は、受講者目線で作成する

受講者用研修教材（テキスト）は、大きな文字、視覚的にイメージがしやすいように図形による描画、写真、又は、機器の画面の引用等を豊富にしましょう。

ICTの専門用語は、高齢者の理解の妨げとなるため、できるだけ使用しないようにしましょう。

テキストは、読者の視認性を考慮すると、カラーが望ましいですが、費用対効果の考慮が必要です。

テキストには、操作上の留意点を具体的に例示すると効果的です。

（ポイント）

- ・テキストの内容は、講習内容の正常処理に沿って作成するのが一般的ですが、受講者の誤操作が散見されます。誤操作した場合の対応についても説明を加えておくと親切です。
- ・講義に使用するアプリケーションのバージョンアップが行われると、テキストの図や説明と本番の画面とが異なることが発生します。その事象を想定して、例えば、バージョン番号を明記したテキストを作成すると受講者に対しても親切で、受講者はパニックになりません。【関連：43頁】
- ・受講者用研修教材（テキスト）には、テキストの最終頁に、氏名及び緊急連絡先を記入する欄を設けておくと効果的です。高齢者の場合、講習会を受講中に気分が悪くなる、急に倒れるなど、健康に対する配慮も必要です。そのような緊急時のために、テキストの最終頁に緊急連絡先を記載してもらってあげば、速やかに対応することができます。【関連：42頁】

（本実証事業での事例）

本講習会では、前半グループの講習会では、講習会を実施しながらテキストを修正しました。そして、後半グループの講習会では、完成版のテキストをカラー版で、受講生全員に配布しました。

受講者用研修教材（テキスト）の最終頁には、氏名及び緊急連絡先を記入する欄を設けました。しかも、個人情報保護にも配慮して、テキストの裏表紙ではなく、1頁めくった内側に記載するようにしました。

・受講者用研修教材は、受講者それぞれに配布する

受講者用研修教材（テキスト）は、受講者間で共用することは避けましょう。

自宅に戻ってから講習会の学びを再現して、復習して忘れないようにするために、受講者は、テキストに自分なりのメモを記載します。また、次回の講義を安心して受講するために、予習します。

（ポイント）

- ・高齢者に限らず、受講者は、タブレットと研修教材を自宅に持ち帰り講習会の

学びを再現して、復習したいと考えます。しかし、タブレットを利用するためには、タブレットが利用できるインターネットの環境が必要です。そのため、自宅でのタブレットを使用した復習は簡単ではありません。現物のタブレットがなくても、予習・復習が出来る研修教材であれば、復習が可能です。

【関連：27頁】

(本実証事業での事例)

本講習会では、講習会の最初の日、受講者それぞれに受講者用研修教材を配布し、自宅への持ち帰りを可能としました。講習会にテキストを忘れる人のために、予備も用意しました。なお、テキストには、緊急連絡先を記載してもらいました。

(4) 講師配置及び研修及びICTサポーターの配置等

講習会を効果的に実施するためには、講師とそれを支えるICTサポーターが重要です。講習会は受講者が、「緊張しない」、「気兼ねなく受講できる」環境作りが重要です。講習会を行う講師、ICTサポーターは、同じ地域・価値観をもった人であることが効果的です。

ICTサポーターの役割は、「講習会の事前準備、受講者の受付、受講日当日の講師のサポート、講習会の後の機器の整理・保管、研修教材の管理、その他事務管理等」で、ICTサポーターの気配りは、講習会の成果に影響します。

・講師は、受講者3～4人に1人が望ましい

講義は、各受講者に1人の講師を配置して実施した方が、受講者も気兼ねなく、わからないことを聞くことができ、理解も進むので、端的には、最良の方式ですが、反面、受講者数に応じた講師を配置しなければならないため、コスト面で無理があります。そこで、受講者3～4人に1人以上の講師を配置すると効果的です。

講習会の実施に当たっては、受講者が、いつでも、何でも、何回でも質問できる体制を整えることが重要です。

(ポイント)

- ・複数の講師による講義の場合は、メイン講師とサブ講師に分けて、役割を分担して行うと効果的です。サブ講師は、受講者が講義について行っているかを確認し、メイン講師による講義をサポートする役割を担います。また、サブ講師によるサポート範囲（担当する座席やグループ）を事前に決めておくと効果的です。

【関連：42頁】
- ・予定していた講師が急病等の理由によって講習会の講師の任が果たせない事態が生じてても、控えの講師を充当し、速やかに対応できるように予備の講師を準備しておくと効果的です。

(本実証事業での事例)

本講習会では、地域出身の、ICTスキルを有し、かつ、高齢者向けのICT講習会の講師経験のあるシニアボランティアを、講習会の受講者4名に対して1名以上配置(受講者15名に対して、1人のメイン講師と3人のサブ講師を配置)しました。

当日予定していた講師が急病等の理由によって講習会の講師の任が果たせない事態が生じて、控えの講師を充当し、速やかに対応できるように、講習会を実施する自治体毎に7人以上の講師を登録配置することを基本体制としました。

・講師は有償のボランティアで、講習に責任をもたせる

講師は、同じ価値観を持った、講師の経験者が有効です。

複数の講師が交替して講習することを考慮して、事前に、講師に対して、講師用研修教材を使用して指導し、講師間の講義内容のレベル合わせを行うと効果的です。

(ポイント)

- ・事前の指導時期は、講義本番までに講師自身が指導内容をマスターできる期間を考慮すると効果的です。 **【関連：24頁】**
- ・講習に対する責任を講師に持ってもらうためには、ボランティアであっても、ある程度、有償とする(例えば、最低限、交通費等は負担する等)ことが有効です。

(本実証事業での事例)

本講習会では、講師には、地域出身の者を充て、その資質として、タブレットを使ったことのない受講者に対して分かりやすく教えられる能力を有する者で、講師用研修教材を使用した研修講習を受け、研修を完了した者を充てました。

具体的には、講習会を実施する地域の運営協力団体が推薦したシニアボランティアの講師候補者に対して、指導者を派遣して、標準カリキュラム全ての内容に亘る講習内容についての講義方法を習得するための研修を実施しました。

また、講師が自習し講習会の準備ができるように、講師候補者に対する研修講習と講習会の本番の期間を約1週間の期間を置くようにして、講師候補者の自習時間を設けました。

本講習会の講師には、講習時間を基本にして、一定の謝金と実費の交通費を支給しました。

(5) 講習会の受講者の募集及び選定

講習会の受講者募集は、講習会の目的、受講対象者、そして、費用対効果を考慮しながら、主催者の実情に合わせた募集方法で実施するのが効果的です。

募集方法としては、“広報紙(誌)に掲載する。チラシやポスターを印刷して公的施設に置く、掲示する。関係機関や団体経由で配布する。また、地域の老人会やシニア向けのサークル等の人的ネットワーク（口コミ等）を活用する”が、一般的です。

・募集要項は、漏れなく、正確に明示することが重要

講習会の受講者募集時、次の内容を正確に明示しなければ、受講応募者は混乱し、問い合わせが殺到します。

募集期間は、応募者の立場に立って、ある程度の余裕を持って設定することが必要です。

[明示内容]

講習会の主催者

講習会の実施目的及び実施目標

講習会の開催日時及び場所（駐車場の有無を含む）並びに講習内容

講習会の募集要項

- ・受講者の条件（年齢、住所、性別、ICTのスキルレベル等）及び選定方法
- ・受講料（受講料の有無を含む）
- ・募集人員
- ・受講応募の申込方法
（申込先、申込期間及び受付時間、申込情報〔個人情報〕の取扱い、問合せ先等を含む）
- ・受講者選定時の受講者への連絡方法など

(ポイント)

- ・広報紙(誌)等に表示する場合は字数制限等があり、募集内容の正確な表示に注意が必要です。 **【関連：38頁】**
- ・応募者は、講習会の目的や内容について、自分に都合の良いように解釈して応募するため、募集要項の記載には注意が必要です。 **【関連：26頁】**
- ・受講者の条件（ICTのスキルレベル）の記載は、特に注意が必要です。
ICTのスキル等が同一の受講者であれば、受講者のICTのスキル等のレベルに合わせて講習を行うことができるため、講習内容（説明すべき内容）の決定が容易ですが、受講者のICTのスキル等のレベルがバラバラである場合には、講習レベルをどのレベルに合わせるか等の配慮が必要となるため、講習内容（説明すべき内容）の決定が難しくなります。 **【関連：43頁】**

スキルレベルの例：

- ・ パソコンやタブレットを使ったことがない
 - ・ インターネットやメールを使っている
又は、ソフトウェア（アプリケーション）を使っている
 - ・ パソコンを利用して、資料等を作成している 等
- ・ 講習会の目的・目標に沿った応募者でなかった場合、受講者の理解程度によって、講義内容に対する不満（講義の速度が早い／遅い、内容が易しい／難しい）が発生します。 **【関連：26頁】**

（本実証事業での事例）

本講習会では、費用対効果を考慮しながら、講習会を実施する自治体の実情に合わせた募集方法で受講者を募集しました。

例えば、応募案内を自治体の広報紙(誌)に掲載したり、応募案内を記載したチラシを広報紙(誌)に差し込んで、又は、関係機関や団体経由で配布したり、町内会の回覧を通じて周知したり、新聞記事への掲載や地元のケーブルテレビでの放映等マスコミと連携したりして、広く受講者を募集し、募集の効果を上げました。

また、地域の老人会やシニア向けのサークル等を中心に、口コミ等による周知拡大も図りました。

募集案内に掲載する際には、“高齢者”という表記では曖昧であるため、“高齢者は65歳以上の者である”と定義し、認識の統一を図りました。しかし、その表記については、各地域の事情もあるため、各地域に任せました。

なお、本実証事業における募集に関しては、作成したチラシだけでは募集要領が十分に伝わっていないことが見受けられました。よく読んで理解した上で申込んでいない人もいました。例えば、本講習会の目的は、「ICTを利用したコミュニティ形成やボランティア活動等地域社会への参画に繋げるためのICTリテラシーの向上」でしたが、募集要項に明確に記載されなかったため、タブレットの操作講習会と解釈して応募してきた人もいました。

また、受講者の条件に、“ICTのスキル”を明確に記載しなかったため、色々なICTのスキルの人が応募してきました。

・ 公的な広報手段を利用すると費用対効果が絶大

講習会の募集が高齢者の目に留まるよう工夫しましょう。

自治体の広報紙(誌)に募集要項を掲載すると、非常に有効です。広報紙(誌)の一部として、募集のチラシを広報紙(誌)と一緒に配布する方法も有効です。

（ポイント）

- ・ 募集のチラシを公共施設に設置し、掲載しても、高齢者がその公共施設を訪問するのは頻繁ではありません。

- ・自治体の広報紙(誌)は、掲載原稿の〆切時期(数ヶ月前等に原稿を提出することが条件)があります。また、掲載する字数が制限される場合があります。募集要項を正確に周知する工夫が必要です。
- ・講習会の開催時期と広報紙(誌)の発行時期(頻度)の整合性の確認は必須です。

【関連：24頁】

(本実証事業での事例)

本講習会の場合は、大半の自治体は、広報紙(誌)を利用し、さらに、他の手段を併用して広報活動を行いました。

応募者の70%(受講者のアンケート結果による)が、“市の広報、差込みチラシを見て応募した”でした。応募者数は、自治体によって異なりましたが、全体の応募者は、定員(990人)の1.7倍の1,680人でした。

参加受講者が予定を満たさなかった地域がありましたが、急な募集であったこと、人口及び人口密度も少なく、支援する運営協力団体が地元になかったことがその要因と思われます。

・応募の受け付け方法を工夫する

講習会の応募の受け付け方法は、電話やFAXが一般的です。他に、メール、往復葉書等の利用もあります。

講習会の応募受付に当たっては、応募者や受付者の両面から配慮するようにしましょう。

受付期間は、余裕をもった期間を設定しましょう。

受付とは別に、問い合わせ窓口も準備しましょう。

(ポイント)

- ・応募状況を把握する上でも、受付様式を事前に準備し、受付の履歴を残すと効果的です。
- ・電話での受付の場合には、早朝、深夜、祝祭日の対応等で、受付者に負担がかかります。また、電話をすぐに受信しないと苦情につながります。加えて、受付メモ等の履歴を残す際の手間がかかります。「言った／聞いていない」等のトラブルが発生する場合があります。
- ・FAXでの受付は、受付の履歴も残るので良い方法です。しかし、相手方のFAXの感度レベルが低く、まるっきり判読できない場合や、送信側のミス(例えば、裏表が逆)で白紙を受信する場合があります。
- ・メールでの受付は、高齢者でICTに不慣れであることを考えると、ほとんど、利用されません。
- ・往復葉書での受付は、応募者の往復葉書代の負担が必要となりますが、受付履歴、受講決定の通知等から考えると、良い方法です。

(本実証事業での事例)

本講習会の場合は、応募受付は、講習会を実施する自治体と運営協力団体に担って頂きました。多くの場合は、地域の運営協力団体が受付及び問合せの窓口となって対応しました。

受付方法の多くは、電話で受け付けました。一部、FAXや往復葉書で受け付けました。FAXで申込みを受け付けた地域では、応募者のFAXの感度レベルが低くて、まるっきり判読できないぐらい薄く、しかも、発信元情報も設定されていないため、着信履歴を確認したら、非通知での送信となっており、連絡できないという事例もありました。

・受講者選定基準の明確化と受講決定通知を工夫する

受講応募者が多数いる場合に備え、受講者の選定基準を募集時に明確にし、募集要項に明示するようにしましょう。講習会の目的や内容等に応じて、抽選・申込順等の方法を選択すると効果的です。

選定した受講者への連絡は、電話による方法が一般的です。その場合、受講者の受講日の間違いや忘れ防止対策も考慮しましょう。

(ポイント)

- ・ 高齢者に限らず、無料の講習会では、申込者自身に負担が生じないため、講習会の実施日近くなって辞退する人もいるので、補欠の選択ルールも考慮しておきましょう。
- ・ 当選した受講者への連絡ができない場合（例えば、電話番号の誤り、非通知の電話に出ない等）もあるので、それに対応した補欠の選択ルールも考慮しておくのが効果的です。
- ・ 受講者の受講日の間違いや忘れを防止するため、受講決定通知のFAXや葉書（費用が発生します）等の紙媒体を送付するのも効果的です。 また、講習会の近日になって、再度、電話で受講の意思を再確認することも効果的です。

(本実証事業での事例)

本講習会の場合は、受講応募者が多数いる場合に備え、受講者の選定基準は、「講習会実施地域に在住で、かつ、65歳以上の高齢者を優先する」という統一選定基準を設けました。最終選定は、講習会を実施する自治体及び運営協力団体に担って頂きました。実態として、受講者の最終選定は、申込順とする地域が多く、抽選で行った地域もありました。

当選した受講者への連絡は、電話による方法が一般的でした。なお、講習会の開催間際になって、再度、電話で受講の意思を再確認して、突然の受講辞退を防止していた地域もありましたが、それでも、講習会を辞退する人がいました。受講者の間違いや忘れ防止対策として、受講決定通知の葉書を郵送した地域もありました。

3.3 講習会の実施

講習会は、基本的に、講師及びICTサポーターが中心となって実施します。

講師は、講習会の目的及び目標から決められたカリキュラムに従って、受講者が、欠席せず、厭きずに、楽しく受講して、ICTリテラシーの向上に繋がるように講義を進める必要があります。

ICTサポーターは、講習会を実施する講習会会場の設営等諸準備（利用機器の搬入及び据付、保管、搬出）、講習会の受付、講習会の実施状況の記録を行い、講師が問題なく講義ができる環境を構築します。

そして、本番の講習会を始める前に、講師及びICTサポーターが協力して、講習会のリハーサルを行うと効果的です。

・講習会のリハーサルは、本番環境で、本番状態で行うのがベスト

講習会リハーサルの実施目的は、講習会の実施時間、実施内容等のスケジュール全体の確認、講師の講義の事前練習、ICTサポーターの講習会実施支援業務の事前確認等ですが、この他に、不具合点の事前摘出もあります。この不具合解消の対策期間を確保するため、本番数日前にリハーサルを実施し、本番を迎えることが効果的です。

講習会のリハーサルは、出来るだけ、本番環境で、本番状態で行うようにしましょう。

タブレットを使用した講習会では無線を使用します。インターネットとの接続等通信環境の事前確認は必ず行いましょう。

(ポイント)

- ・通信環境の事前確認は、会場が替わる度に会場毎に実施すると有効です。
- ・確認は、講習会で使用するICT機器の数、講習会で使用するアプリケーション（特に、地図、写真等の画像処理のアプリケーションの場合は）を本番と同じ状態（通信の負荷を本番と同じ状態にするため）にして実施すると、不具合の事前摘出に効果があります。【関連：30頁】
- ・無線ルーターを複数用意（アクセスポイントの増加）し、タブレットの接続先を割振るとアクセスの問題が解決する場合があります。【関連：30頁】
- ・インターネットとの接続不可等のトラブル発生に対する講義の対策を検討しておくと効果的です。例えば、全員で一度にアクセスすることは止めて、グループ分けして、アクセスのタイミングをずらして負荷を下げする方法も有効です。

(本実証事業での事例)

本講習会では、各地域（自治体）の3会場を実施する講習会のうち、最初の会場において、講習会を実施する前日に、講習会のリハーサルを行いました。

リハーサルは、標準カリキュラムの4コマ（第1日目から第4日目までの全て）の具体的な講義内容の他、講習会の運用に重点を置いて、問題なく実施でき

ることを確認しました。

インターネットとの接続等通信環境の事前確認は、講習会のリハーサル時の使用を通じて確認しました。しかし、講習会本番を想定して、使用する機器の数や使用するアプリケーションを本番と同じ状態にしての事前確認は実施しませんでした。また、講習会の会場が替わる度に、会場毎のリハーサルは実施しませんでした。

その結果、“インターネットとの接続ができない。アプリケーションが反応しない”等通信が不安定な状態が発生することがありました。そのため、急遽、無線ルーターのアクセスポイントを増加し、タブレットの接続先を割振る等の対策を行いました。

また、トラフィックを低減するため、講師が実施して受講者に見せる講習方法に変えたり、受講者をグループに分けて、アクセスのタイミングをずらしたりする等の対策も実施しました。

・受講者が安心して、楽しく受講できる環境作りに配慮する

受講者に講習会に来ることが楽しいと感じさせる環境にすることが大切です。

講師と受講者間だけでなく、受講者間で、隣同士で教え合う環境ができると講義の効率がアップするので、受講者間のコミュニケーションの機会を設けると効果的です。

（ポイント）

- ・ コミュニケーションの機会を設ける方法として、自己紹介、受講者のグループ化、ドリンクコーナーの設置、懇親会の開催等の方法があります。
- ・ 机の配置、着席する座席の割当てに、意図を持った工夫等で対応する方法も有効です。
- ・ 配布された個々の受講者用教材（テキスト）に、体調不良時の緊急連絡先を記載させることを最初に行うと、受講者も安心して受講ができます。主催者も緊急時に対応できます。
- ・ 無断で欠席する、安易に欠席することを防止する対策として、例えば、最初の受付時に誓約書を書かせる、グループ化を行う、講師からの“次回も会いましょう”という声かけ等が有効です。

（本実証事業での事例）

本講習会では、講習会会場の運営は、講習会を実施する自治体又は運営協力団体に担って頂きました。主に、地域の運営協力団体が、過去の経験、地域の事情を参考に、工夫して実施しました。

「自分の目的が達成した」とか、「討論や発表等には参加したくない」などの理由から、無断で欠席する、安易に欠席することを防止するため、グループ化や講師からの声かけを行いました。

・一日の講義時間は、3時間程度が適当であり、1時間間隔で休憩が必要

高齢者にとって、不慣れなICTの講習会の受講は、大変なストレスです。ストレスを軽減する工夫をしましょう。

講義時間は、講義内容にも関係しますが、一日の講義時間は3時間程度が目安です。

タブレットは、受講者個人毎に用意しましょう。

座学が長いと集中力がなくなるので、タブレットを実際に操作する講義と組み合わせると効果的です。

(ポイント)

- ・講義は、復習を取り入れながら、講義回数を増やす講義方法が有効です。何回にも分けて講義回数を増やすことは、講師にとっては、非効率的、非経済的ですが、受講者側のメリットを優先しましょう。【関連：27頁】
- ・講義は、プロジェクターやマイクを利用すると効果的です。【関連：32頁】
- ・くどい説明は避け、専門用語は使用せず、簡潔に分かり易く、ゆっくり説明するようにしましょう。【関連：27頁】
- ・タブレットの特性を活かして、座席から離れる、講習室外に出て操作するのも気分転換になります。
- ・受講者には、講師の話聞くのが精一杯で、自分のタブレットの画面、プロジェクターの画像、受講者用教材（テキスト）を同時に参照できません。講師は、この点に配慮して、参照する場所を指示して説明すると効果的です。
- ・タブレットの操作は、実践が大切です。講義では、受講者全員に操作を体験させましょう。

(本実証事業での事例)

本講習会では、1講義3時間で実施しました。また、講義の途中の切りの良いところ（1時間間隔）で休憩を入れました。

プロジェクターに講師のタブレット画面と受講者用教材（テキスト）を交互に映して講義内容を説明するようにしました。

今回の受講者のICTスキルは、バラバラであったため、講師は、講義レベルの設定、復習時間の設定において、苦労しました。

・講義内容は、一般的事例だけでなく、地域の事例を加えると効果的

受講者が、“私も知っている”と興味を持ってもらうと、講義の効果が上がります。一般事例だけでなく、講習会の実施地域に関係する事例を取り上げると効果的です。

(ポイント)

- ・同じ教材を使用して、複数の地域で講習会を実施する場合においても、受講者用教材（テキスト）の一般事例部分を地域の事例に差替えて講義すると、受講者には身近な事例であるため、受講者を講義に集中させることができます。講

習会を実施する地域に合わせて、受講者用教材の差替資料を作成するようにしましょう。差替資料の作成ができない場合は、講師が説明を加えて、地域の事例を紹介しましょう。

【関連：34頁】

（本実証事業での事例）

本講習会では、標準カリキュラムに沿って、全国共通の受講者用の標準のテキストを作成して配布しました。

各地域の講習会では、講師が、一般事例や地域にあった事例等を活用して講習を実施しました。

例えば、次のような事例は受講生に好評でした。

- ・開催地域の自治体のホームページの情報
- ・自治体が設置しているライブカメラの紹介
- ・乗換案内やネットショッピングの実生活に役立つサービス
- ・ネットショッピングで実際に購入した商品を紹介
- ・自治体の協力の下、「詐欺サイトへの誘導」等の画像を紹介

・講習会で使用する端末機器の維持をタイミング良く行う

講習会を複数回に亘って実施する場合には、講習会終了後の端末機器の維持管理が重要な作業です。

タブレットの場合は、充電、液晶画面の清掃、各種設定の初期化やデータの消去等の維持管理が必要です。タブレットの維持管理方法（維持管理作業の実施タイミング、担当者、実施場所等）を事前に決めておく必要があります。

（ポイント）

- ・タブレットの**バッテリーの使用可能時間や充電に必要な時間を把握しておく**ことが必要です。**【関連：32頁】**
- ・充電用の**コンセントの数と容量を確認し、テーブルタップを準備**することも必要です。**【関連：30頁】**
- ・タブレットの無駄なバッテリーの消費を抑えるために、**電源オフの確実な確認、不用意な電源オンの防止**が必要です。

（本実証事業での事例）

本講習会では、端末機器の充電、液晶画面の清掃、各種設定の初期化やデータの消去等の維持管理を地域の運営協力団体（ICTサポーター）に担って頂きました。

原則、1日の講習会終了毎に、維持管理を実施しました。

タブレットは、機種によって差はありますが、約6時間使用后、充電が必要で、講習スケジュールを見ながら、講習会の合間、場合によっては充電しながら講習会を実施しました。

タブレットの液晶画面の清掃は、講習会の合間にも実施しました。

・講習会の改善点等のフィードバック、関係者間の情報共有体制を整備する

講習会を継続的に実施するためには、講義終了時に、アンケートへの回答を受講者にお願ひ、その結果を講習会の改善等にフィードバックさせることが重要です。

また、アンケートへの回答は、受講者に限らず、講師及びICTサポーターにもお願ひすれば、受講者以外の視点からの講習会の改善点等のヒントも得られます。

アンケートを取得しても、次回の講習会に反映することができなければ、アンケートを取得することが無意味になります。アンケート結果（特に、改善が必要な事項）を次回の講習会に反映する仕組みを整えると効果的です。

また、講習会を、複数の講師、複数のICTサポーター、複数の関連事務担当で運用する場合、講習会の実施成果（良かった点、問題や改善点等）などの情報を共有する仕組みを作りましょう。

（本実証事業での事例）

本講習会では、講習会の実施成果やアンケートの実施結果などの情報の共有は、自治体及び運営協力団体で行いました。

各地域での受講者数や、講習会での実施成果（良かった点、問題や改善点等）については、週次報告という形で、協会が講習会を実施する各地域の運営協力団体から収集し、必要事項を関連する他の地域に展開しました。

3.4 講習会の実施結果の検証

「P L a n、D O、C h e c k、A c t i o n」が大切です。講習会も、色々な観点からの調査（C h e c k [アンケートの実施] 及びA c t i o n [分析と対策]）すると効果的です。

講習会の計画時に、調査の目的や観点を明確にし、調査計画を立案することが必要です。調査計画を立案する際には、5W1Hの項目を検討・立案すると効果的です。

ここでは、高齢者の受講者へのアンケートを中心に記述します。

（ポイント）

- ・ 調査の観点は、
 - ・ 講習会の目的・目標は達成できたか等の成果を確認する。
 - ・ 実施した講習会の改善点を探す。
 - ・ 他の講習会に展開すべき事を探す。
- ・ 調査の対象は、
 - ・ 会場や機材等の物理的なものに対して
 - ・ 人的なものに対して
 - ・ 講師に対して
 - ・ ICTサポーターに対して
 - ・ 受講者に対して
 - ・ 実施ルールや実施方法等の運用的なものに対して

(本実証事業での事例)

本講習会では、各地域で実施した講習会の成果を確認するため、記入式（アンケート）による調査と対面式（ヒアリング）による調査を実施しました。

記入式（アンケート）による調査は、講師、ICTサポーター及び講習会の受講者の三者に対して行いました。

対面式（ヒアリング）による調査は、講習会の受講者に対して行いました。受講者に対するヒアリングは、講師が行いました。

・アンケート項目は、アンケートの目的（講習会の目的等）から決める

アンケート項目は、色々な観点から設定して本音を引き出すことが必要です。その項目の中に、アンケートの「目的（講習会の実施目的等）の評価」に該当する項目を入れると効果的です。

(ポイント)

- ・アンケートの質問文章は、簡潔に、専門用語を使用しない等、受講者が迷わないで、即答できるようにすることが重要です。

(本実証事業での事例)

本講習会では、アンケート項目は、本実証事業終了後も、自治体又は地域での自発的な取組みとして普及展開ができるように、講習会の在り方を問う項目を設定しました。

特に、講習会の受講者に対しては、高齢者の社会参画促進等の観点から、講習会の目的に関する理解度、講習会のカリキュラム（実施内容）及びその進め方（実施方法）、講習会を通じて得られた成果、社会参画への今後の試みを中心に項目を設定しました。

また、講師及びICTサポーターに対しては、講習会の準備、実施内容、実施方法を中心に調査し、効果的かつ効率的な講習会の進め方や進めるに当たっての留意点等を調査しました。

・アンケートの取得方法は、受講者の記入する立場から決める

アンケートは、記入式による調査法と対面式（ヒアリング）による調査法があります。記入式による調査が容易です。対面式（ヒアリング）による調査は、調査する時間や分析する時間が必要です。なお、高齢者の受講者は、対面式（ヒアリング）による調査は好まない傾向があります。

(ポイント)

- ・記入式アンケートにおいては、選択肢方式が効果的です。自由に記載させる方式は、記述時間もかかる、漢字が分からない等で、記載しない（空白）回答が多くなります。

- ・ 選択肢方式は、アンケートの集計や分析に、稼働をかけずに短時間で済みます。選択肢方式の場合、5段階から選択させると、ある程度、本音の回答が得られます。3段階から選択させると、中段階に回答が集中してしまいます。7段階から選択させると、回答者は、回答に迷ってしまいます。

(本実証事業での事例)

本講習会では、受講者に対してのアンケートは、記入式による選択肢方式（5段階からの選択による）の調査法を多用しました。

また、受講者の“社会参画に関する達成度の評価”のため、対面式による調査も行いました。受講者に対するヒアリングは、講師が行いました。

・ アンケートの様式は、空白回答とならないように工夫する

高齢者の受講者は、講習が終了すると、即退席したいという気持ちになるので、アンケートの記載の時間を講義時間内に十分確保すると有効です。

アンケートの回答が、空白回答とならないように工夫しましょう。

(ポイント)

- ・ アンケートは、記名式では、本音が聞けません。空白回答が多いという結果になります。
- ・ アンケートの分析において、講習全体での相関関係の分析を行いたい場合は、氏名以外の機器番号や座席番号等をアンケート用紙に記載させる等が有効です。
- ・ アンケートの量は、A4用紙1枚程度が適当です。
- ・ アンケート項目の配置と回答者の目線の流れを一定にすると回答しやすくなります。裏面も使用時は、その旨も大きく表示して気づかせるなど、注意喚起も必要です。
- ・ 講習会が複数日にまたがる場合には、講習日毎にアンケートを取得すると効果的です。最終日にまとめてアンケートを取得すると、以前の講習内容を忘れてしまい、空白回答が多くなります。
- ・ アンケート用紙を持ち帰って、次回の講習時に回収する方法は、持参忘れが多発し、アンケートの回収が難しくなります。

(本実証事業での事例)

本講習会では、講習会時間内でアンケートを実施するようにしました。個人情報保護の観点から無記名方式で、講義毎にアンケート用紙を配布して回収しました。また、記載漏れ防止のため、その都度、講師による注意喚起を行いました。

初日のアンケートには、受講者のプロフィール（年齢、性別、ICTのスキル、所有しているICT機器等）を記載させ、最終日のアンケートには、講習会全体に対するアンケート項目を入れました。

付録 成果発表会で報告した講習会の成果事例

(1) 北海道 帯広市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（帯広市）

成果発表者のプロフィール

①講習会実施地：北海道帯広市

② 特色：食料自給率110%
十勝平野の中心小都市文化情報の発信地
(人口ca.17万、20歳未満人口少)
高齢化率 25.5以上、核家族化、高齢世帯増加



2015年2月12日帯広市役所撮影 by F. 2602

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（帯広市）

③タブレット等ICT機器の利用経験：
講習会でタブレット初体験—
PCは「Apple」から「iMac」へ、同時に仕事のためPCとノートパソコンの「Windows」を使用、使い勝手に慣れない
「iPhone」をメール・電話・カメラ・ビデオ用に使用中

④講習会への参加動機：
* タブレットの機能と種類等を学習し、
ノートパソコンの使い勝手の不便さを凌駕できるか？
* 高齢者サロンの交流や野外自然観察会等へ利用可能か？

講習会に参加して

①講習会の参加動機である目的の達成状況

- * タブレットの種類と機能の比較検討
- * 小型・軽量で持運び良好。
- * カバー無く滑落破損の危険性。
- * セキュリティの強い種類を選択。

* * 自宅のPCiMacとiPhoneに合わせiPadが最適。

②講習会に対するコメント

* 連続4日間(3時間)講習日程:

- ・ 高齢者の集中力は維持できず、疲労する……
1～2日間隔の講習日程を設定して欲しい。
- ・ 冬期開催（降雪期）は、シニアのマイカー運転参加に不安。
- ・ 自宅復習が必要……貸出可能なテキストを要望（用語・名称・位置）。

* テキスト内容:

- ・ インターネット利用項目；
難解、確認時間と復習が必要。
- ・ 趣味の多様な項目；
時間不足で不消化。



社会参画の実績又は予定

～タブレットは、社会参加やライフワークに広範な活用の可能性がある。～

社会参画の実践状況とタブレット活用の可能性を検討中

- * 高齢者が安心・安全に生活するために成年後見制度の利用を
「特定非営利活動法人とかち市民後見人の会」が出張講座を展開中。
- ・ 高齢者サロン等でタブレットを用い
説明・相談が効果的。
- * 地域の自然観察・環境調査会・理科教室等で
自然保護活動中。
- ・ 景観と動植物をタブレット写真撮影後、
参加者に供覧し、現場で種の特徴を調べ、
同定へ繋げモニタリング調査へ。



社会参画への問題提起

シニアが日常生活で重要な町内会・趣味の会の行事や
防災等の情報交換をするために：

・回覧板・訪問・☎・ファックス・コミュニティ（遅い）
・パソコン・メール（速い、操作難しい）

使いやすいタブレットで相互連絡のネットワークを構築

* タブレット操作学習会を開催～

- ・ 公的なコミュニティセンター施設に積極的導入を図り、ICT機器を設備。
- ・ タブレットやICT機器講師の派遣。



- * 町内会の見守る隣人（シニア）として
公的な友愛委員や民生委員と
ボランティアの市民後見人や認知症サポーター等が活動中。
この見守りの協働・共助活動にタブレット活用の拡大化を図る。
（例：独居者、認知症者の徘徊、不審者の通報等の情報共有）

* タブレット利用の増大を図る：

- ・ 貸出タブレットを準備し、
操作説明・教習する。
- ・ 高齢者自身がタブレット購入時には、
販売業者が初期設定や使用法の説明と
講習を実施。
- ・ 簡便でUD（ユニバーサルデザイン）に
基づいたタブレット開発を促進。



(2) 岩手県 一戸町

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（一戸町）

【成果発表者のプロフィール】

① 講習会の実施地域

岩手県一戸町

② 地域の特徴

- ・位置 岩手県の東北
- ・人口 13,654人
- ・高齢化率 35.97%
- ・風向明媚（奥中山高原）
- ・国指定史跡 奥州街道
- ・御所野遺跡
（世界遺産登録へ向け活動中）
- ・IGRいわて銀河鉄道
- ・デマンド交通
- ・産業 酪農・農業



奥中山高原

平成25年度の全国星空継続観察暫定観測で21.7等級の夜空

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（一戸町）

【成果発表者のプロフィール】

② 地域の特徴

史跡と遺跡



国指定史跡奥州街道



御所野遺跡

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（一戸町）

【成果発表者のプロフィール】

③ タブレット等ICT機器の利用経験

パソコン経験あり、現在はスマートフォンを主に利用

・スケジュール管理、・病気のことを調べる(病児保育室に勤務)



④ 講習会への参加動機

- ・セキュリティなど不安な面がある。
- ・スマートフォンを更に便利に使う方法を知りたい。
- ・大きな画面で見やすいタブレットを知りたい。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（一戸町）

【講習会に参加して】

① 参加目的の達成状況

～ かなり達成できたと感じています。～

- ・受講後タブレットを購入しました。
- ・情報収集のWeb検索やコミュニケーションが以前よりスムーズになった。
- ・タブレットを利用すると画面が大きいので、新聞や本なども読みやすく写真なども他の人と一緒に見ることができ楽しく使え、良さがわかった。
- ・タブレットの便利さ使い勝手の良さを、夫を初め他の人にも広めたい。

② 講習会について

- ・初回の講座でインターネットにつながらずテキストが前後しました。
- ・毎週3時間しか触れられなかったなので、できれば家でも復習ができるようにタブレットを持ち帰りたいかったです。
- ・音声認識は、一戸訛りを認識してくれませんでした。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（一戸町）

【社会参画の実績又は予定】

① 社会参画に関する理解及び考え(受講前)

今まで交流できなかった人たちとのコミュニケーションを持ちたいと思っていました。

在職中は、興味関心があってもなかなか時間が取れませんでした。

退職後は、町民セミナーや登山、グランドゴルフ、地域の行事などに進んで参加しています。



ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（一戸町）

【社会参画の実績又は予定】

② 社会参画に関する考えの変化(受講後)

～社会参画に向けた活動、地域の人々との交流等、いろいろ活用できそうである～

③ 社会参画の実践状況又は予定

病院での仕事に活用

病院の病児保育の仕事に活用できるのでは？



・病気について、職員や保護者と同じ画面を見て、保育や看病の要点などの情報を共有したい。

サークルでの活用

タブレットなどICTを利用して情報収集や仲間とのコミュニケーションがもっとスムーズにできそう。



・どんどん使いこなして仲間にも広めて、ICTで繋がる、コミュニケーション輪を広げたい。
・今までは参加者だったが、運営側にまわり役立ちたい。

ネットでの活用

SNSを使えば人の輪が広がれそう。



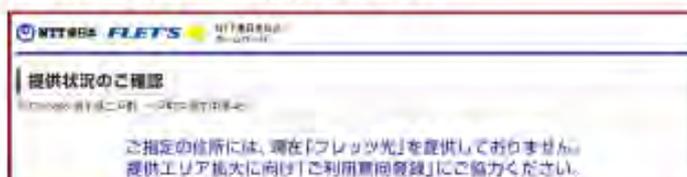
・同じ趣味がある人とインターネット上で交流したい。
・現在参加しているサークルでスケジュール管理や活動を紹介するサイトを運営したい、など

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（一戸町）

【社会参画への問題提起】

■ インフラが完全ではない

光回線・高速無線通信環境が利用できる地域は半分程度しかありません。
無線通信は、容量制限があつて思う存分使えません。



■ インフラの維持費が高額

タブレットを購入できてインフラを維持していくには、退職世代には負担が大きすぎます。

■ タブレットが売っていない！？

そもそも、タブレットを店頭販売している業者が町内にありません。
取り寄せはできるようですが実機を見ないと決められません。

(3) 栃木県 栃木市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (栃木市)

【成果発表者のプロフィール】

①講習会の実施地域

栃木県栃木市

②地域の特徴

鯉のいる街、蔵の街とちぎは、
栃木県の南部にあって、東に筑波山、
西に太平山、北に日光連山にかこまれ、
市内中央に巴波川（うずまがわ）が流れる静かなたたずまいの街です。



③タブレット等ICT機器の利用経験

現役時代はパソコンが必需品でした。
今ではパソコンでHPの作成、SNS等を楽しんでいますが、
海外旅行で利用するため、タブレットを購入し利活用しています。

④講習会への参加動機

タブレットの利活用で、認知症の予防とシニアの方々を元気にしたいと考え、
勉強のため参加しました。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (栃木市)

【講習会に参加して】

①講習会の参加動機である目的の達成状況

タブレットを利用、活用することにより、脳の活性化に繋がり、
友達も増え、趣味を通して楽しいお話もでき、認知症の予防に効果があることを教わりました。
今後の活動である「認知症の予防、シニアの方々を元気にします」の参考になり、参加目的は達成できました。

②講習会に対するコメント

講座日程と内容に関しては、十分効果があったと思います。
4日目の成果と応用の講義、避難ルートの作成に関しては、
地域の観光を案内するテーマ、例えば、「観光地までのルート」とか、
開催地の有名な観光地や名勝に行くルートの作成に変えれば、
社会参画の目的にも沿って、かつ、楽しく学べるかと思えます。

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え（講習会受講前）

栃木県シルバー大学校を卒業し、

シニアを元気にするために何をすれば良いか模索していました。

また、社会参画は健康寿命を伸ばすための一つの要因と考えていました。

②社会参画に関する考え方の変遷（講習会受講後）

タブレットを楽しむことで高齢者が元気になれることを教わりました。

「きらりネットサロン」を立ち上げ、「タブレットの利活用で認知症の

予防とシニアの方々を元気にさせる」活動を行っています。

③社会参画の実践状況又は予定

「野木町協働のまちづくり支援事業」に「きらりネットサロン」で応募し、

採択されました。事業名は「シニア世代の生活密着型情報通信活用支援」。

事業の内容は、「タブレットの利活用で認知症の予防」を目的に、

脳の活性化および仲間づくりを通して社会参画を推進して行く事業です。

そして、シニアの皆様を元気にしていきたいと考えています。

3

【社会参画への問題提起】

①高齢者の閉じこもり防止

高齢者の閉じこもりは、大きな社会問題となっている。

閉じこもりの世界から一歩外に出てもらえることができれば、

いくらかでも支援することができるが、それができていない。

高齢者一人一人が趣味、仕事で生涯現役を目指し、自分の必要性を再確認し、

多くの方々とふれあうツールとして「タブレット」の利活用を通じて、

高齢者の社会参画が実現できればと考えています。

②認知症予防

認知症は、高齢者の社会参画を妨げる大きな問題である。

下記の記事に示すように「5人に1人が認知症になる」ということは

「5人に4人は認知症にならない」ということである。

認知症になることを心配するよりは、「5人に4人」に入るシニアの方々を

増やすために「きらりネットサロン」の活動を通じて、タブレットの利活用で

「認知症の予防、シニアの方々を元気にしたい」と考えている。

「栃木県保健福祉部の最新の将来推計によると、県内の認知症の人は、10年後の2025年に11万人を超える見込みであることが分かった。65歳以上の高齢者のおよそ5人に1人となり、従来の推計より最大で4万5千人増える。全国で25年には約700万人に達するとして厚生労働省のことし1月の最新の推計値を、本県の高齢者人口などの見直しに当てはめて推計し直した。」

（下野新聞 2月8日朝刊より抜粋）

4

(4) 新潟県 新潟市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (新潟市)

【成果発表者のプロフィール】

①講習会の実施地域

新潟県新潟市

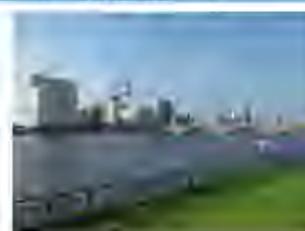
②地域の特徴

日本一の信濃川が町を横切る、海と川と平野の町

人口82万人の政令指定都市です。

主な産物は、のどくろ、甘海老、コシヒカリと日本酒（越乃寒梅）

都市地あり農村地ありとミックスした住みやすいところです。



③タブレット等ICT機器の利用経験

60歳まで会社においてパソコンの使用経験あり。

情報収集や検索はできる。スマートフォンは未経験。

④講習会への参加動機

昨年11月に子供からタブレットを与えられたが、触っていなかった。

山登り仲間と飲み会で参加した仲間からタブレットで山写真を見せてもらい、

きれいに整理され拡大して見られることに感動して、自分もやってみたいと

思い、“市報にいがた”で、シニアタブレット講座の案内を見て応募した。

参加する前に期待していたことは、写真の整理と山の撮影、タブレットを

中心としたコミュニケーションの活性化、GPSの理解・使用、読書。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (新潟市)

【講習会に参加して】

①講習会の参加動機である目的の達成状況

講習会期間の達成状況としては、基礎が理解できたので、目的は達成！

今後はタブレットを触りまくり、経験を積んで、もっと使えるようになりたい。

②講習会に対するコメント

<講習内容>

・当日「なるほど」で完了するが、後日忘れてしまう。

（期間中、タブレットの貸出しがあると、復習ができて助かる）

・iOSのタブレットを持っているので、Android以外の

iOSや、Windowsの使い方も知りたかった。

<開催方法>

・4回以上あれば、操作を忘れないために、集中的に連続開催もあり。

・小集団グループ制にして、受講者3～4名に対し、講師が1人付き、討議しながら項目を進める方法にすると、遠慮なく他のメンバーに聞けるので理解が早いかも。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（新潟市）

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え（講習会受講前）

ICT機器を使って情報収集や趣味に役立てたいと考えていた。
「社会参画」については、あまり考えたことがなかった。

②社会参画に関する考え方の変遷（講習会受講後）

あまり気にしていなかった「市・県情報」の重要性を認識した。
堅苦しく考えず、まずは一斉清掃・海岸清掃・ゴミ拾いなどに積極的に参加する気になった。

③社会参画の実践状況又は予定

会社OB同士の小旅行ウォーキングの企画を担当している。
高齢者の健康はまず足から。技術はいらないので、健康づくりの名目で誘いやすい。昨年は、新潟市下町ウォーキングを実施した。
今年は、会津若松市内ウォーキング観光を予定している。
ICT機器を会社OB同士との連絡や、GPS機能を使った現地での現在位置の確認や連絡手段とくに、活用していきたい。
また、各住宅の地区により健康ウォークと題し、
里山めぐりウォーク／名勝地探索ウォーク／公園めぐりウォークなどの話題性を持った企画も考えられる。
ICT機器を活用して、広くコース紹介ができるようになればうれしい。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（新潟市）

【社会参画への問題提起】

・ボランティア

ボランティアに参加したいと思っても、邪魔になるのではないかと、一人で参加するのは寂しいなどネガティブに考えてしまい敷居が高い。

参加させるための工夫が大事！

例えば、遊び心を最優先にして、徐々に回を追うごとに目標に近づけていく
町内会の回覧板で案内を発信する際に、企画の参加者を明示させ、隣近所に対し認知・共有させる
記念品（利用価値のある物、割引券（市・県主催の場合）を提供するなど

・その他、自分の趣味が一致した催し／健康になりたい企画／歴史探訪など、市が企画するイベントがあれば、参加したいので、企画して欲しい。
また、私がこのようなイベントを考えたとして、その実現方法がわからない。市などに、「シニア層なんでも相談所」のような窓口があると相談しやすい。

(5) 福井県 坂井市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (坂井市)

【成果発表者のプロフィール】

①講習会の実施地域

福井県坂井市

②地域の特徴

- ・坂井市は福井県の北部に位置し、平成18年3月に坂井郡の三国町、丸岡町、春江町、坂井町、4町が合併して誕生。
- ・人口は、約9万2千人。住人は粘り強い気質。
- ・日本一短い手紙の「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」で有名な安土桃山時代に創建された全国で最古の丸岡城(別名 霞ヶ城)等の歴史的伝統を継承している。
- ・福井県随一の穀倉地帯の田畑が約36%、山林が約31%。「越の国に光」ということから「コシヒカリ」と名付けて、日本の代表的な米を生産。繊維業としては、広巾、細巾織物の機業場が多く、織物製品は、海外へも出荷している。



ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (坂井市)

【成果発表者のプロフィール】

③タブレット等ICT機器の利用経験

携帯電話とPCを所有している。定年退職後、自分に合ったものはないかと探したところ、市の広報紙が目にとまり、NPO法人いきいきITクラブの「高齢者のパソコン教室」を受講した。同法人に所属しながら、地域活動に参画し、PCの勉強を続けている。しかし、タブレットは、使用していなかった。

④講習会への参加動機（講師として）

本講習会の実施を“NPO法人いきいきITクラブ”が受託し、講師のための講習会を受講することになった。タブレットは、PCと違った感覚で、戸惑い、初めは理解できなかった。しかし、取組んで行くと、自分でも、タブレットは本当に手軽で便利と感じるようになった。そして、理事長から、メイン講師に指名された。不安もあったが、折角のチャンスと心に決めて引受けた。引受けたからには、自分も楽しく、活用できないといけなないとの思いで、練習に励んだ。

2

【講習会に参加して】

①講習会の参加動機である目的の達成状況（講師として）

- ・友達とメールや写真の写し方、テレビ電話でのおしゃべり、講習会会場へのルート検索、避難ルートの作成等、お互いに意見交換しながら習得した。これも、楽しい思い出となった。
- ・受講生には、カメラを使う、旅行ルートの検索に人気があった。自宅で、こんなに簡単に交通機関の発着時刻が分かるのか、早速、旅行したいと言う人もいた。避難ルートの作成は、地元の事として、真剣に取り組む姿が印象深く残っている。そして、タブレットは、聞いたことはあるが、若い者がゲームをするものと思っていたが、自分も出来るのだと、大変、喜ばれ満足されていた。講師のやりがいを感じた。

②講習会に対するコメント

受講生の意見として、沢山のメニューを受講することはうれしいが、一度に、あれもこれも聞いて、頭の中がいっぱいになり、整理がつかなくなったという声もあった。

3

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え（講習会受講前）

“NPO法人いきいきITクラブ”に所属しながら、地域活動に参画しながら、PC等の勉強を続けてきたいと思っていた。

②社会参画に関する考え方の変遷（講習会受講後）

講師をする事に不安もあったが、引受けたからには、自分も楽しく、活用出来ないといけないと練習に励んだ。そして、自分自身が理解出来なかった事は、受講生も同じなので、指導の要点をゆっくり説明する優しさゆとりが大切だと心掛けている。

③社会参画の実践状況又は予定

講師という立場をわきまえながら、自分も楽しみ、沢山の人の出会いを大切にしたい。社会貢献しながら実りある人生を歩んでいきたいと思っている。

4

【社会参画への問題提起】

- ・今、受講している人は、人生を前向きに生きている人達が参加していると思います。関心という興味のない人に、意識づけることは、大変、難しいと思います。しかし、関心という興味のない人に対する対策が重要と考えます。
- ・高齢者は、ICT社会におけるセキュリティ事故、トラブルに巻き込まれる不安等で、新たなICT技術に対しては、消極的です。よく、理解させる対策が必要と考えます。

(6) 岐阜県 大垣市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (大垣市)

【成果発表者のプロフィール】

①講習会の実施地域
岐阜県大垣市

②地域の特徴
地図上の位置………名古屋からJRで35分
(濃尾平野の北西(標高5m。今も昔も都会です)
関ヶ原の合戦………西軍・石田三成の本拠地
松尾芭蕉………「奥の細道」結びの地
江戸時代………10万石の譜代の城下町
明治以降は………自噴水が豊富で繊維の街。
現在は………人口16万人の中核都市で 岐阜県最大の工業都市
将来は、情報集積地、ソフトピアジャパン(右上図)に現在は150社・2100名の方が就業



③タブレット等ICT機器の利用経験
昔「ザウルス」⇒⇒今 パソコン+緊急用に「ガラ携」………携帯はメール主体
スマホブーム⇒⇒屋外での活用に興味………大画面のiPad mini購入
ゲームはしないし、他の活用方法も解らず………「アプリ無ければ只の箱」

④講習会への参加動機
使い方が解らず、困っていた時期にIPADの教育があるとの情報をキャッチし、早速参加させていただきました。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (大垣市)

【講習会に参加して】

①講習会の参加動機である目的の達成状況
当初の目的は達成……屋外でキーワード検索・ボランティア等で活用

②講習会に対するコメント
・講習会の環境……沢山のサポーター配置で最高
・講習会の内容……ネット検索等内容が多方面で覚えきれない部分もあった。
パソコンでも利用できる内容は除外し、iPad専用限定していただけると、もっと解りやすかったかなと思います。
・教える技術習得が必要……Face time等を活用にはiPad仲間を増やすことが肝要
・更に欲を言えば……次回はパソコンや、デジカメ等との同期方法の技能講習会があると嬉しいです。
(自分で勉強するのが王道ですが……)

2

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え (講習会受講前)

＜ボランティア活動＞

(公益財団)大垣国際交流協会

外国人に日本語を教えています。

(社会福祉法人・大垣社協)

パソコンによる文字通訳(「要約筆記」)

その他

地域の自治会や同窓会の世話役

②社会参画に関する考え方の変遷 (講習会受講後)

活用方法を模索中 筆談パット・マップ

3

③社会参画の実践状況又は予定

大垣市主催の講習会開催……サポート役として2回参加

これからも……要請あれば協力したい。

(講習を受けて以降の私の活用例)

①「筆談パット」……ブラジル人への日本語筆順指導に活用。

②「お絵かきドラキッズ」……喫茶店で隣のお孫さんが熱中。

親様にもお礼……皆が良い時間を持つことが出来た。

③「マップ」……活用したがその案内精度は高い。

④「IP Talk Viewer」を搭載したIPAD

同時通訳的に文字送信……聴覚障害者にとっては、福音。

⑤IPADの写真……大きくて鮮明。

デジカメや携帯に比べ……製品説明するとき迫力がある。



①(昼)と書かせると上段の四角から書き始めビックリ



③ m 単位での方向表示
自家用車案内もある。



④「要約筆記」の例

4

【社会参画への問題提起】

(今後の課題)

- ①視力低下でスマホを避ける……高齢者にIPADを宣伝、アプリの供給
★我々の周りには……知的な好奇心旺盛なメンバーは多い。
時間を共有したい沢山の高齢者を町に飛び出させる格好のツール
高齢者間で携帯電話同様、爆発的な展開が期待できる。
高齢者が行動すれば、経済の好循環にも繋がる。
- ②iPadを支給……障がい者対象の「日常生活用具等給付」の一環
「IP Talk Viewer」(アプリ)を搭載し、会議に参加し発言できる環境を
整える。⇒⇒障がい者の方にもITCの恩恵が及ぶ。
- ③今後の広報活動にすべてが掛かっている。

(追記)市内の専門学校・校長先生の話

- ①来年度入学する生徒全員にIPadminiを支給する。
- ②現在教師間で100件のアプリを勉強している。
iPad活用の条件 機器の提供とアプリ講習会の同時開催を

(7) 和歌山県 田辺市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (田辺市)

【成果発表者のプロフィール】

①講習会の実施地域 和歌山県田辺市



②地域の特徴

- ・田辺市は、平成17年5月に5市町村が合併して誕生した人口7万8千人です。
- ・世界遺産に登録された「熊野古道(紀伊山地の霊場と参詣道)」があります。
- ・地域産品としては、農産物では梅・みかん、水産物ではイサギ・シラスが知られています。
- ・講習会場の「芳養」という名前は古い文献にも載っている熊野古道の通り道にあたります。九十九王子の一つ芳養王子、一里塚のお地藏さん等古くからのものが残っています。
- ・漁村として、芳養湾でのシラス漁が主なもので一本釣り船での水揚げもあります。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (田辺市)

【成果発表者のプロフィール】

③タブレット等ICT機器の利用経験

- パソコンと携帯電話を使っています。
- パソコンは写真編集／年賀状作成など趣味を中心に使っています。

④講習会への参加動機

- タブレットには興味があったので使ってみたいと思い講習に参加しました。

【講習会に参加して】

①講習会の参加動機である目的の達成状況

タブレットの基本的な使い方がわかった。

さらに、次の講習会場でもオブザーバーとして参加する中で、
便利な使い方がわかった。

「田舎では手に入らない台所道具や調味料などの買い物」

「TV局のHPでの放送中のドラマのあらすじ、人物相関図、キャストなどをみて
ドラマをより楽しむ」

「CD売上ランキングなどを見て、歌の流行、歌手名を知って若い人たちとの
会話のきっかけがつかめる」

②講習会に対するコメント

講習会は全く初めての人にとってテキストの内容を全部習得するには
時間が足りなかったと思います。

3

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え（講習会受講前）

地域のために何かしたいと考え、田辺市で毎年一年間通して開催さ
れる「シニア・リーダー・カレッジ」を受講しました。

また、地域の歴史に興味を持ち、和歌山大学南紀熊野サテライト授
業がBig.Uで開設されており、その中で紀州郷土学を受講しました。

②社会参画に関する考え方の変遷（講習会受講後）

「シニア・リーダー・カレッジ」などを受講する場合、ある一定の場所に
集まって何かをするということが前提ですが、いろんな理由でその場
所まで来られない人もタブレットを使うことで参加することが出来る集
まりが出来ないかと思うようになりました。

また、紀州郷土学の情報をネットで調べることもできるので何か情報
発信ができないかと思うようになりました。

4

【社会参画の実績又は予定】

③社会参画の実践状況又は予定

本年十月に和歌山で国体が開催され、手話ボランティアとして参加します。

タブレットを使って、方言への対応、情報検索に役に立てたいと思います。

【社会参画への問題提起】

ボランティアで多くの人にタブレットを持ってもらうには費用がかかります。

その財源の確保の問題があると思います。

(8) 山口県 光市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (光市)

【成果発表者のプロフィール】

①講習会の実施地域
山口県 光市

②地域の特徴

- ・ 県東南部
- ・ 5万3千人
- ・ 昭和18年に市制施行
- ・ 新市誕生10周年



山口県
光市

伊保木地区



地区からの眺望



少なくなった田園



市章



市の木 クロマツ



市の花 ウメ

1

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (光市)

【成果発表者のプロフィール】

③タブレット等ICT機器の利用経験

1. パソコン：20年
 - ・ 案内状、企画書、予算書等を作成
 - ・ 伊保木地区で、表計算、文書作成、写真編集、ネット検索等について相談に乗っている
2. タブレット、スマホ
 - ・ 利用経験はないが、関心あり
3. PHS、携帯電話：15年
 - ・ 電話、メールに活用

④講習会への参加動機

1. タブレットで何ができるのか？
2. パソコンやスマホとの違いは？
3. 情報を容易に発信する方法は？ 等々を学びたい

2

【講習会に参加して】

①講習会の参加動機である目的の達成状況

1. タブレットは、立ち上がりが早く、見たり、読んだり、検索することに適し、パソコンは、複雑で高度な作業に適しているの、使い分けるのがよい
2. タブレットは、持ち運びができ、どこでもタイムリーな情報発信ができることが分かった



“習うより慣れろ！”と11月にタブレットを購入し、1月末からモバイルルーターでネット接続を開始した

②講習会に対するコメント

No.	区分	コメント
1	講習内容 テキスト	機能が種々あるため、内容が多岐に亘っていたが、時間がないので、内容の絞り込みが必要
2	機 器	講習期間中だけでも貸出機があるとよかった
3	接続環境	大勢がネットに接続できる環境の整備が必要

3

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え（講習会受講前）

ボランティア活動の「交通弱者の生活支援」事業や「伊保木公民館の行事」等に参画はしていたが、情報発信や他地区との協働をしていなかった

②社会参画に関する考え方の変遷（講習会受講後）

1. 地域の問題を他の団体と協働して解決したい
2. ネットで、情報発信することに関心が広がった
3. タブレットを利用できる仲間づくりをする

4

③社会参画の実践状況又は予定

1. 伊保木楽々会 事務局 (実践と予定)

平成23年10月から、光市コミュニティ交通事業を活用して、高齢化率の高い(61%)伊保木地区で、交通弱者の生活を支援している

⇒ タブレット購入後、送迎の車中で、行事の案内や写真を見せ、自分の参加した行事は、興味をもって見て貰える

⇒ 動画も見せるようにしたい

- ・現在の利用者：27名
運転手：8名(ボランティア)
- ・419回運行
- ・1260人を送迎(3年3ヶ月)



雨天の送迎は喜ばれます

③社会参画の実践状況又は予定

2. 伊保木道路見回り隊 代表

平成26年度光市元気なまち協働推進事業の交付団体として、緊急車両等の通行の妨げとなる「支障木等の伐採とその有効活用」を企画・実行し、活動状況をFacebookを使って、発信した

- ・Facebook：受講中の10月に登録

- ・伊保木地区の4自治会で支障木等を伐採
- ・講習会開催
 - i) エコストープづくり
 - ii) チップで堆肥づくり

伊保木地区の道路見回り隊は、伊保木地区の道路見回り隊として、緊急車両等の通行の妨げとなる支障木等の伐採とその有効活用を企画・実行し、活動状況をFacebookを使って、発信した。



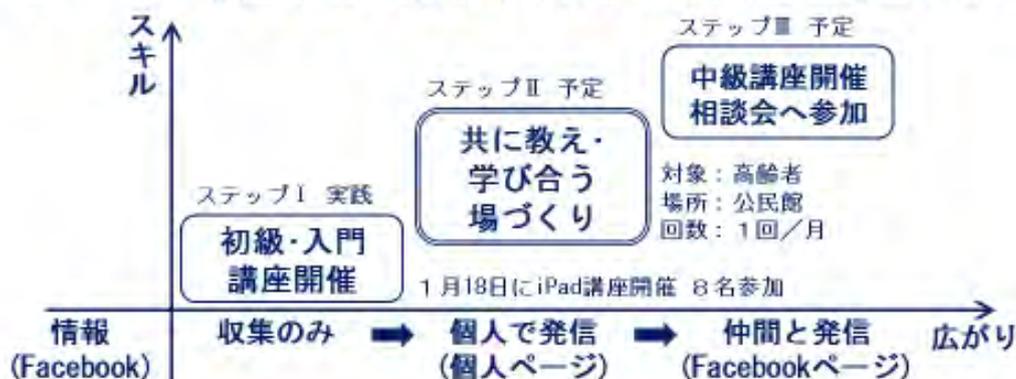
活動状況の発信例

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（光市）

【社会参画への問題提起】

伊保木地区は、少子高齢化、人口減に加え市街化調整区域の縛り等で活力が低下している。地区を活性化するために、ICT利用の核となり、行政や地区内外の団体と連携・協働して、活動したい

1. ICTの利活用力をアップし、仲間と地区内外に情報を発信して、ファンや協力者を増やし、活性化したい
2. ICTを独居老人の見守りや防災等利活用範囲を広げたい



(9) 愛媛県 松山市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (松山市)

【成果発表者のプロフィール】

① 講習会の実施地域

愛媛県松山市



② 地域の特徴

- ・四国の中核都市で城下町、道後温泉で知られ人口は52万人。
- ・島嶼部と重信川・石手川により形成された松山平野が広がっている。
- ・気候は温暖で古の時代より豊かな地として知られ、柑橘の産地として有名。
- ・文化的には俳句の正岡子規を生んだ地として知られている。

③ タブレット等ICT機器の利用経験

- ・携帯はガラケーを使用、パソコン歴は長く、仕事や趣味に使っている。
- ・タブレットは iPadmini を旅行時の地図や時刻検索で使っている。
- ・ブログは仕事関係に使用、Facebookは個人の旅などを掲載している。

④ 講習会への参加動機

- ・障がい者の情報機器を使った就労を進めるNPO法人に勤務。障がい者の就労の道具としてタブレットが使えないかと考えた。
- ・事務所所在地のまちづくりに知識やICT技術が生かせないかと考えた。

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (松山市)

【講習会に参加して】

① 講習会の参加動機である目的の達成状況

- ・今回の講習会でiPadmini の使っていなかった機能を知ることができた。
- ・避難ルートや写真の受け渡しなど、今後使えそうな技術を会得できた。
- ・今まで居住地のコミュニティーには参加していなかった。地域の公民館行事や祭り、清掃などは連れ合いに任せっきりであった。今後は参加をしたいと思っている。

② 講習会に対するコメント

- ・受講者のレベルが様々であった。初心者のために基本的な操作についての研修を充実しては如何でしょうか。
- ・グループ作業で受講者間のコミュニケーションがとれて良かった。更に、受講者間の関係を深めるため、講習会の途中で昼食をしながらとかお茶をしながらの企画を取り入れたら如何でしょうか。

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え（講習会受講前）

仕事面では障がい者施設の支援活動をしながら社会参画意識を持っていた。居住地の社会参画は特に必要を感じなかったし、時間も取れなかった。

②社会参画に関する考え方の変遷（講習会受講後）

多くの人への情報提供により、共有する事により何かが生まれる。この様な形で社会参画したい。

③社会参画の実践状況又は予定

居住地の地域への社会参画は知人から勧められている。まずは公民館の活動から始めてみようと思っている。参加してみて自分の出来る事や役立つことが見つければそれを行っていきたい。

障がい者へのタブレットを使った支援についての検討

視覚障がい者の目の代わりになる使い方。

聴覚障がい者に音声認識の仕組みが使えるか。

【社会参画への問題提起】

1. 社会参画困難性への対応

・個人的な問題

「社会参画は余裕のある人のすること」という意識

性格/人見知りする性格、一人が好き

「現在、充分充実した生活をしていて」何も困っていない

・対策としての対価

感謝の気持ちを表す(表彰などの制度)

礼金の支払い

・社会参画のイベントやボランティア情報の提供

社会的活動への参加をしたい人には、グループのプレゼンや展示の仕組み

文化的な活動への参加をしたい人には、様々な種類の事業の準備と広報

2. 高齢者の情報通信技術の有効活用への対応

・技術習得の困難性

高齢者は覚えるのが苦手、最新技術の機器は高価

・解決の方法

ハンディーを持つ人たちのための参加しやすい講習会の開催

機器のグループへの貸し出し

高齢者・障がい者を含む誰もが支障なく利用できる情報提供と相談窓口の設置

(障がい者にはパソコンサポートセンターがあります。)

(10) 鹿児島県 薩摩川内市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (薩摩川内市)

【成果発表者のプロフィール】

①講習会の実施地域

鹿児島県薩摩川内市

②地域の特徴

鹿島町は、鹿児島県薩摩半島の西方、東シナ海に浮かぶ3つの島からなる甑列島の下甑島の北に位置し、夏は鹿の子ユリ、冬は椿の花が咲く自然豊かで風光明媚な島です。



鹿島町は旧鹿島村で、平成16年に1市4町4村で合併して、薩摩川内市となった。海を越えた合併に全国からも注目を集めた。

国の重要無形文化財、ユネスコ無形文化遺産に登録されている甑島のトシドンは秋田のナマハゲに似た文化で毎年大晦日の夜に子どものいる家庭に年神様としてやってきます。



主な産業は水産業で、定置網漁ではブリ、サバ、アジと様々な魚類が獲れ、中でも刺し網漁で獲れるキビナゴは島の特産品として知られ関東の料亭でも重宝がられており漁師も誇りにしています。



甑島はこの3月16日に国定公園に指定されることとなっており、島はお祝いムードに包まれ、全国から沢山の人が訪れてもらいたいと願っています。



③タブレット等ICT機器の利用経験

私は、パソコンを持っていますが、文書や年賀状、写真を編集する程度です。今流行のスマートフォンやタブレットは使ったことがありません。

④講習会への参加動機

歳とってからスマートフォンやタブレットは必要がない、何の価値もないと勝手に思い込んでいました。しかし、私の周りでも使っている方が徐々に多くなり、それを見たり、聞いたりして、少しずつ関心を持ち始めていた時、長浜地区コミュニティセンターを通じて、私の住んでいる町から峠を越えて、車で30分の長浜コミュニティセンターで講習会があるという案内がありました。いい機会だと思い、今後、きっと使うことがあるだろうと言う先行投資として、今回、参加を申し込みました。

3

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会（薩摩川内市）

【講習会に参加して】

①講習会の参加動機である目的の達成状況

分厚いテキストを見たときには、理解できるのか不安になりました。しかし、講師やICTサポーターの方々も同年代の方で、ホッとし、すごく安心な気持ちになり、リラックスして受講できました。講師がスクリーンに映し出しながらゆっくりした進め方で、高齢者の私にも解り易く、教えていただきました。タブレットを使用しての実習は、初めて習う事ばかりだったので、興味が湧き、時間の経つのも忘れて受講できました。また、ICTサポーターも複数おられ、傍らに付いていていただいたので、わからないことがあったらすぐに聞くことが出来ました。また、グループディスカッションの時もアドバイスと笑いを下さり、大変、有意義なそして楽しい講習内容でした。

今回の講習の成果として、インターネットショッピングだけでなく、地図情報・GPS・カメラ機能や防災情報等ICTの利便性を深く理解できました。

②講習会に対するコメント

四日間ではなく、もっと研修期間を延ばしていただければ良かったと思いました。ひとつひとつのことをもっとゆっくり習えたら良かったと思いました。

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え（講習会受講前）

高齢になると第一線から退き隠居するイメージがありましたが、今の時代ではインターネットを利用することによって、たくさんの友人が出来、新たな社会とのつながりが出来、まだまだ、楽しくて便利な世界があるのだと気持ちは持っていました。

②社会参画に関する考え方の変遷（講習会受講後）

私は、退職した後、漁業に従事して自船で一本釣りや、素もぐり漁で生計を立てています。最近、インターネットショッピングをよく利用している友人にお願いして、魚群探知機を購入しました。インターネットショッピングは、時間や距離を短縮し、これを利用しない手はないと思いました。しかし、簡単に買える反面、今流行の詐欺に引っかからないかという心配もあります。セキュリティについて、勉強してから利用したいと思っています。

③社会参画の実践状況又は予定

私は漁師ですから魚介類を獲り新鮮なものを提供するのが仕事です。漁をしながら、お客様に新鮮な魚介類の情報を、リアルタイムで発信していきたいと思っています。お客さんも生産者の顔が分かり、すごく合理的だと思います。

私は高齢者クラブの役員をしている関係から、会員の皆さんに、「ICTを活用することは、高齢者にとって、すばらしい生き甲斐づくりが出来る」という事を機会あるごとに話をしたいと思っています。



【社会参画への問題提起】

自治体などの団体が、このような講習会を増やしていければ、地域の高齢者にとって、すばらしい生き甲斐作りが出来ると考えます。また、今回の続きのような講習を下甕島で開催することを要望します。



市のホームページの映像配信で進捗状況が見られます

(11) 沖縄県 南城市

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (南城市)

【成果発表者のプロフィール】

①講習会の実施地域

沖縄県南城市

②地域の特徴

人口は、42,000人余り、産業は、農業と漁業です。
斎場御嶽が世界遺産になり、最近、観光客も増加した。

③タブレット等ICT機器の利用経験

携帯電話とPCを所有し、体調が悪い時の病名や応急処置の検索、
国会の政治家の答弁等で分からない言葉の調査等に利用していた。
タブレットは所有していたが、使用法が分からず利用していなかった。

④講習会への参加動機

今までテレビを見て、分からない言葉の意味はPCで調べていたが不
便で、その場で、タブレットですぐ調べられる様にしたかった。

1

ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト成果発表会 (南城市)

【講習会に参加して】

①講習会の参加動機である目的の達成状況

- ・タブレット使って体の関節の仕組みを調べることができ、いつも準備運動をする様になった。
- ・航空写真で、自分達の住んでいる地域の問題、例えば、地すべりや川の氾濫区域の危険箇所等を知ることができる様になった。

②講習会に対するコメント

- ・隣の受講生とも遠慮なしで話ができ、使い方を教わることができたが、もっと和気あいあいの雰囲気も必要と感じた。
- ・指導者が最初は出来なかったが、どのようにして、出来るようになったとか、体験談も聞かせてほしかった。

2

【社会参画の実績又は予定】

①社会参画に関する理解及び考え（講習会受講前）

タブレットが家にあっても、使用法が分からず、難しいと思い使おうとしなかった。また、カメラ機能を使うことは考えていなかった。

②社会参画に関する考え方の変遷（講習会受講後）

講習会で習い、こんなに便利で使いやすい物だとわかり、テレビを見ながら分からない言葉の意味を調べ、地名を聞いて、どこにあるのか等も調べている。タブレットの使用に自信がついた。そして、地域の活動にカメラ機能を大いに利用するようになった。

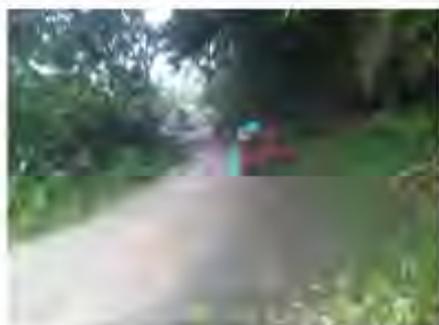
③社会参画の実践状況又は予定

・航空写真で、海の地形がよくわかり、リーフで船を止める場所がよく分かるようになり釣り船が危ない所に船を止めている場合は指導した。
また、リーフの中で魚の通る水路がわかる様になり、追込み漁の袋網を入れる位置を簡単に決める事が出来た。獲った魚は観月会で、

3

【社会参画の実績又は予定】

“魚汁、刺身、にぎり”で、婦人会やPTAの皆にふるまった。又、自然の大切さや危険な箇所、潮の流れ等を教え、事故防止の指導を行った。
・台風の予想進路も詳しくわかる様になり、川の氾濫の状況も写真で撮り、危険な状態である事を市役所に説明出来るようになり、認めてくれて、排水の工事も行われており、周辺の農家はとても喜んでいる。



4

【社会参画の実績又は予定】

- ・野菜の植える時期や種の選定等が詳しく分かる様になった。その情報を、家庭菜園を行っている皆にも教えた。今後、皆で農業クラブを結成し、遊休地を利用して、減農薬で旬の野菜を食べ、健康管理に努めることになった。
- ・台風で港に色々な漂流物が流れている現場を写真で撮り、各船主へ説明し、多くの方が協力して清掃してきれいになった。
- ・今まで、地域の草刈りは生活道路と拝所のみで、保育園の子供たちの散歩道は対象外であった。草が生茂る現場の写真を撮り、区の集まりで説明し、草刈りする事になった。



【社会参画への問題提起】

- ・講習会の開催時間ですが、夕方6時頃から開始する受講コースもあっても良かったと思う。(シニアの人も、色々、忙しい方も多い)

平成26年度 0049-0058

「ICT利活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」事業

「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する手引書

本手引書の他、カリキュラム、テキスト、広報資料等の掲載 URL

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/media_literacy.html

平成27年3月

発行元 総務省情報流通行政局
情報通信利用促進課
東京都千代田区霞が関二丁目1番2号
TEL 03-5253-5685(直通)

委託先 一般財団法人ニューメディア開発協会
東京都中央区日本橋小舟町3番2号
TEL 03-6892-5032